教育委員会議事録

令和元年7月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録

(令和元年7月定例会)

1 日 付 令和元年7月26日(金)

2 場 所 海老名市役所401会議室

3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 松樹 俊弘

教育委員 海野 惠子 教育委員 平井 照江

教育委員 酒井 道子

4 出席職員 教育部長 伊藤 修 教育部次長 萩原 明美

参事兼教育総務 中込 紀美子 就学支援課長兼 小林 丈記

課長 指導主事

参事兼教育支援 和田 修二 教育支援課教育 淺井 大輔

課長兼指導主事

支援担当課長

学び支援課長 外村 智昭 海老名市教科用 秋山 範子

図書採択資料作成委員会委員長

5 書 記 教育総務課主事 湊 大輝

6 開会時刻 午前10時00分

7 付議事件

日程第1 議案第23号 令和2年度使用教科用図書採択について

8 閉会時刻 午後4時00分

○伊藤教育長 本日の出席委員は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会7月定例会を開会いたします。

本日は既に傍聴人には入っていただいておりますけれども、傍聴希望者がございます。 傍聴者につきましては、教育委員会会議規則第19条に規定されておりますので、傍聴を許可したいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、傍聴を許可いたします。

今会の署名委員は、平井委員、松樹委員、それぞれよろしくお願いいたします。

○伊藤教育長 それでは、審議事項に入ります。

日程第1、議案第23号、令和2年度使用教科用図書採択についてを議題といたします。 教育部長より提案理由の説明を求めます。

○教育部長 資料の1ページをごらんいただきたいと存じます。

議案第23号、令和2年度使用教科用図書採択についてでございます。

提案につきましては、別紙のとおり、令和2年度使用教科用図書採択について議決を求めるものでございます。

提案理由につきましては、令和2年度において使用する教科用図書を決定いただきたい ためでございます。

資料の3ページをごらんいただきたいと存じます。

海老名市立小中学校における令和2年度使用教科用図書採択についてご説明いたします。

本日は1から3の3点について審議をお願いいたします。

1点目は、令和2年度使用小学校教科用図書の採択についてでございます。これは、海 老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告を資料とし、別紙1、小学校用教科書目録よ り、令和2年度から4年間使用する小学校教科用図書の採択について議決を求めるもので ございます。

2点目は、令和2年度使用中学校教科用図書の採択についてでございます。「特別の教 科 道徳」以外の中学校教科用図書については、別紙2の中学校用教科書目録の中から平 成27年度採択において資料とした別紙3、平成28年度使用中学校用教科書、海老名市教科 用図書採択資料作成委員会報告書により、新たに採択について議決を求めるものでござい ます。

3点目は、令和2年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてでございます。特別支援学級教科用図書については、文部科学省著作教科書及び別紙5、別紙6、元号読みかえによる令和2年度使用一般図書一覧から、教科書用図書として児童生徒に応じて選択するため、採択について議決を求めるものでございます。

それでは、この後、1点目の令和2年度使用小学校教科用図書の採択についてから、詳細を和田教育支援課長よりご説明いたしますので、採択につきましてよろしくご審議くださるようお願い申し上げます。

○教育支援課長 1点目の令和2年度の使用小学校教科用図書の採択についてご説明いたします。

5月の臨時教育委員会において、海老名市教科用図書採択基本方針として、令和2年度 の小学校教科用図書は神奈川県教育委員会が定める平成32年度義務教育諸学校使用教科用 図書採択方針に基づき、海老名市教育委員会が設置した海老名市教科用図書採択資料作成 委員会の報告を資料とし、種目ごと1種の教科用図書について海老名市教育委員会が採択 すると承認されております。

また、海老名市教科用図書資料作成委員会では、令和2年度の小学校教科用図書は神奈川県教育委員会が定める平成32年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針に基づき、海老名市教科用図書採択資料作成委員会が設置した調査委員会の報告を受け、教科用図書の採択に必要な資料を取りまとめ、海老名市教育委員会へ報告すると承認されております。

以上の点を踏まえまして、5月13日と7月5日に行われました海老名市教科用図書採択 資料作成委員会の報告書につきまして、続いてご説明させていただきます。

お手元の令和2年度使用小学校用教科書、海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書をごらんください。

この報告書は、海老名市教科用図書採択資料作成委員会が全種目の小学校教科書を調査 して作成したものでございます。この報告書には、海老名、大和、座間、綾瀬の4市の調 査員が、1回目を5月29日、2回目を6月18日または20日、3回目を6月24日または25日 として調査員会を合計3回行い、調査結果を海老名市教科用図書採択資料作成委員会へ報 告し、内容を審議した結果がまとめられております。

なお、結果については、発行者を絞り込むことなく、それぞれの発行者について調査した結果でございます。

また、市内全ての小学校へ教科書の見本本を1週間貸し出し、学校からの意見を集約した結果もあわせてまとめられております。学校意見の集約方法については、まず学校において、観点に沿って調査した後、学校意見票をまとめていただき、それを海老名市教科用図書採択資料作成委員会委員長が委嘱した整理員が集計し、その結果をもとに採択資料作成委員会において報告書に発行者ごとに記載いたしました。この採択資料作成委員会の報告書に加え、事前に配付させていただいた文部科学省の教科書編集趣意書、県教育委員会の調査研究の結果を踏まえ、ご審議くださるようお願いいたします。

- **〇伊藤教育長** それでは、ただいまの説明に対しましてご質問ございましたらお願いいた します。
- ○海野委員 ただいまご説明していただきましたけれども、4市の調査員会とありましたが、4市で何人ぐらいの調査員の方が教科書を調査したのでしょうか、お伺いしたいと思います。
- **○教育支援課長** 4市の調査員は合計で76名でございます。それぞれの市から19名が調査員となっております。
- ○酒井委員 調査員の人数なのですけれども、教科によって調査する調査員の人数に違い はありますか。
- ○教育支援課長 発行者の数や教科書の点数によって調査員の数は調整をいたしました。 具体的に申し上げますと、国語、書写は市から3名、音楽、図画工作、家庭、保健は市から1名、そのほかの教科は市から2名が調査員となりました。
- ○平井委員 学校からの意見について観点に沿って調査したとありましたけれども、その 観点について説明をお願いします。
- ○教育支援課長 種目ごとに神奈川県の教科用図書採択方針に準じて、10個の観点を設定いたしました。そのうち6個は各種目に共通な観点といたしました。例えば学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか、体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか、などでございます。

次の3個は種目別の観点といたしました。例えば国語であれば語彙を豊かにするための 題材として工夫や配慮がなされているか、などでございます。そして、最後の1個は各校 の児童の実態から見て適切か、となっております。

以上、10観点でございます。

○伊藤教育長 ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、これより1から3の小学校使用のもの、中学校使用のもの、支援級使用のものという3点について審議を進めていきたいと思います。

初めに、採択の方法について確認をさせていただきます。開かれた採択を一層推進するという趣旨から、1点目の令和2年度使用小学校教科用図書の採択の方法は、種目ごとに皆さんで協議した後、私が教科用図書目録に記載されている順に発行者名を言いますので、最も適しているものに挙手という形で行いたいと思っています。そこで使用する、皆さんにも本日お配りしてありますけれども、「小学校用教科書目録(平成32年度使用)平成31年4月 文部科学省」の中の発行者名の略称でこの後の審議は全て通してまいりますので、その辺もご了承ください。

それでは、そのような方法で進めることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。

次に、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の調査結果については、海老名市教科用図書採択資料作成委員会、秋山範子委員長に報告をしていただくこととしますが、ご異議 ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 ご異議なしと認めます。では、秋山範子委員長を入室させてください。

(秋山委員長入室)

○伊藤教育長 秋山委員長、夏季休暇中でございますけれども、来ていただいてどうもありがとうございます。皆さんご承知のように海老名市立小学校校長会の会長をやっておられます海老名小学校校長先生に海老名市教科用図書採択資料作成委員会の委員長をお願いしました。

それでは、秋山委員長から自己紹介をお願いします。

- ○秋山採択資料作成委員会委員長 私は、今回の採択資料作成委員会の委員長を務めました秋山範子です。よろしくお願いいたします。
- ○伊藤教育長 よろしくお願いします。

それではこれより、1点目の令和2年度使用小学校教科用図書についての審議に入ります。

初めに、小学校教科用図書「国語」の審議に入ります。

海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を秋山委員長にお願いします。

〇秋山採択資料作成委員会委員長 国語は、東書、学図、教出、光村の4社です。お手元 の海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書1ページをお開きください。報告内容を 読み上げさせていただきます。

東書は、国語科で育む資質・能力「言葉の力」として提示し、各単元に「つかむ」「取り組む」「振り返る」の3ステップで課題解決的に学べる工夫がされている。また、本文下には「・」をつけて行をとらえやすい脚注罫線を設け、文字には手書きに近い書体を用いるなど、多くの児童にとって読みやすい工夫がされている。学校からは、「語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、1年上巻「ことばはともだち」では、幼児教育との円滑な接続を図り、幼児期の体験や知的な気付きを言葉で理解し、言葉で表現する楽しさを実感できる工夫がされている。また、ページ下段に新出漢字の他、意味調べが必要な語句が示されており語彙を豊かにする工夫がされている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、プログラミング的思考力を高めるため、前の写真と後ろの写真の間にあったできごとを考えたり、話の展開を考えたりする教材の工夫がなされている。また、学習指導要領「知識・技能」の習得に関して、教材文の後や巻末付録にある「本をよもう」では読書をしたくなるような紹介文が示されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、学習指導要領に新設された「情報の扱い方」に特化し、単元と密接に関連させ 言語活動の中で確実に力がつくように提示されている。また、言語能力の確実な育成につ いて、語彙力を高め、活かしていくことで思考を深められるよう「言葉の宝箱」が巻末に まとめられている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあ った。

- **〇伊藤教育長** ただいまの報告に対しまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。
- ○松樹委員 秋山委員長、本当にいろいろな角度から検討を加えて報告書を作っていただきまして、ありがとうございます。

具体的に発行者名を挙げて質問させていただきたいと思います。光村の報告に「学習指導要領により新設された『情報の扱い方』」とありますけれども、調査員から具体的な説明はどのようにあったのか、教えていただきますでしょうか。

- ○秋山採択資料作成委員会委員長 調査員からは、3年上巻の9ページや59ページを例に 挙げて説明がありました。このように情報の扱い方に特化したページは2年生以上の教科 書で触れられており、目次にはマークがつけられています。
- ○伊藤教育長 ほかにはご質問ありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 それでは、ご質問もないようですので、採択に向けて協議を行います。皆 さん、もう1回確認していただいて、ご意見のある方はお願いいたします。

それでは、これまでも教育委員さんにはとても長い時間をかけて見ていただいています けれども、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○酒井委員 私が教科書を見せていただいた感想なのですけれども、光村の国語の教科書はすごく見やすいなと思って、文字と空白のレイアウトも見やすいなというのと、挿し絵の色使いなんかもすごくやわらかくて、子どもが教材の文章の中に入り込みやすいような雰囲気をすごく感じました。

教出、学図については6年生になっても上下の分冊になっていることで、軽くて持っていったりしやすいので、子どもたちが学校に行く登下校の荷物が重いという点では、そういう配慮がされているなとは感じました。

- **○伊藤教育長** 光村の教科書について本当に子どもたちにとって見やすいというか、読みやすいというのがありましたし、分冊ということで2社。東書と光村は通年で1冊なのですけれども、教出と学図については分冊ということで、今、結構話題になっている子どもたちのランドセルの重さ等もありますので、そういう工夫がされているということです。
- ○海野委員 先ほど委員長からご報告がありましたけれども、光村の言語能力という観点から見て、1学年の「ことばを見つけよう」、「ことばあつめ」から、6年生の「言葉のたから箱」、「言葉の準備運動」が掲載されていまして、言葉を学べるということは子どもたちにとって自分や相手を思いやる心を育てることだと思いましたので、こちらが掲載されているのは子どもたちにとってとてもいいことだなと思いました。

1年生の最初に出てくる、「声に出して読んでみよう」というところで、「あさのおひさま」と書かれているのですけれども、1年生の最初の宿題は音読なのですね。そのときにこういうはっきりとした挿絵で文章が書かれると、子どもたちもはっきりと大きな声で音読ができて、宿題に立ち向かえるのではないかなと思いました。

○松樹委員 先ほどご報告いただきました情報の扱い方というのは、新学習指導要領で新

設をされました。これに特化されたページがあるというのは、報告書にも書いてあり、読ませていただきますけれども、「単元と密接に関連させ言語活動の中で確実に力がつくように提示されている」、まさに私もそのとおりだと思っております。

先ほど酒井委員からもありましたけれども、本当に見やすいというのが一番いい。色使い、また、挿絵とかも適切なのではないかなと私は思っております。

そして、さらに学習の流れや目的がすごく明確なのかなという気がしております。 そんな観点の中で、この教科書がいいかなと私自身は思っております。

〇平井委員 東書は1年生の教科書の中で、絵本のような色使いと顔を入れ込んでいるところは、絵本の世界から興味づけをして、子どもたちに国語の学習をさせていくという点では非常に効果的かなと思います。

光村に関しては本当に工夫がされているなと思います。特に1年生では目次を後ろにしていること、最初に言葉を入れず、8ページ近く割いて子どもたちと先生との対話を重視して、それを通して学習に導入していくという点は、今までにない工夫がされているかなと思います。

もう1点は、2年生の「くじらぐも」は紙質を変えて、くじらぐもの白さを強調するというこのあたりの工夫が今までとはまた違うところで、子どもたちが学習していくにはとても効果的であるかなという感想を持ちました。

○伊藤教育長 私も20年近く小学校の教員をやっていまして、小学校の教員の間、ずっと 光村の教科書を使って指導していました。ほかの教科書ももちろん工夫がなされておりま すが、この間でやはり光村もどんどん改良されていて、かなり工夫がされているという皆 さんの意見もありましたので、恐らく学校の先生方、現場で指導している教員たちも光村 を良いとする声が多いのではないかなと推察するところでございます。それだけで採択の 材料にはなるものではないのですけれども。

それでは、これまでもかなり長い時間、皆さんと話し合いを重ねてきましたので、ここで採決いたしたいと思いますけれども、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(举 手 採 決)

(東書0票、学図0票、教出0票、光村5票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました光村を採択することと決定いたします。

以上をもちまして、令和2年度使用小学校教科用図書「国語」の採択についての審議を 終了とします。

続きまして、小学校教科用図書「書写」の審議に入ります。

海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、秋山委員長、お願いいたします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 続いて書写です。書写は、東書、学図、教出、光村、 日文の5社です。報告書2ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただき ます。

東書は、文字を整えて書くためのポイントを「書写のかぎ」と名付け、1単元に一つ系統立てて配置し、単元のねらいが焦点化されている。また、点画を色分けしたり、擬態語やキャラクターの動きを加えたりして、多感覚へ働きかけることで児童の理解を助ける工夫がされている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、他者やグループでの話し合い、意見交換等を通して、主体的・対話的に学ぶことができるように工夫がされている。また、硬筆の手本と書き込み欄を上下に配置することで、利き腕を問わず練習できるように配慮されている。学校からは、「毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、書写学習で習得した力を他教科や日常生活に活用できるように「レッツ・トライ」や「書いて伝え合おう」などの設定がなされている。また、説明や手本・色づかいや書き順が詳しく載っているので、自主的に学習できるように工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光村は、全教科の基礎である姿勢・筆記具の持ち方が定着するよう、「しょしや体操」が1・2年生で配置されている。また、書く楽しさや達成感が感じられるよう「水書シート」や「たしかめようシール」「書写ブック」などの教材が用意されている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

日文は、筆先のイラストの表情や大きさで筆圧や筆の払い方などが視覚的にわかるよう

になされている。また、学習過程を的確にするために「①考える→②確かめる→③いかす」の3段階の学習コーナーが設定されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 秋山委員長から各発行者とも指導要領改訂の意図を十分に生かされている 教科書であるとありました。また、それぞれ特徴のご報告があったところでございます。 少し見ていただきたいと思います。

それではまず、ただいまの報告に対してのご質問があればお願いいたします。

- **〇海野委員** 光村の中に水書シートがありましたけれども、水書シートについては何か話題になりましたでしょうか。
- ○秋山採択資料作成委員会委員長 話題にはならなかったのですけれども、調査員からは、毛筆の学習をする前の低学年の児童が授業でフェルトペンを使用するときの1画1画を意識して書くような指導に役立つと説明がありました。
- **〇伊藤教育長** それは、光村だけでなくて、ほかの会社も水書シートは扱っているのです よね。

それでは、採択に向けての協議でよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- ○伊藤教育長 まず、事務局、和田教育支援課長、これまでも海老名市は、小学校の教科 書が光村で、書写も光村でやっていたのですけれども、国語の教科書と書写の教科書の関 連性みたいなものはどのように捉えていますか。
- ○教育支援課長 今回、書写は5社の発行者がございますけれども、そのうち4社で国語の教科書も発行しております。国語の教科書も発行している発行者の多くは、国語の教科書に掲載している文学教材等の文章を取り上げて、書写ノートに記載があります。
- **〇伊藤教育長** わかりました。それでは、委員の方々、いかがでしょうか。

水書は自分で指導したことはありません。学習指導要領には、鉛筆みたいなものに低学年のうちから触れさせるというようなこともありましたけれども、やってみればよかったですね。

- **〇酒井委員** やったことはあります。
- ○松樹委員 水書シートがついていない発行者も1社あると思いますけれども、ほとんどついている中で、とめとか、はねとか、払いというのは、鉛筆だろうと、筆であろうと、基本中の基本ですので、やはり小学校低学年のうちから身につけたい。これも学習指導要

領で新設された適切に運筆する能力の向上につながるよう指導工夫するようにという中で 出てきて、私はすばらしい、いいことだなと思うのです。

ただ、学校現場で教えるときには水書用の筆が必要になってきます。その辺は教科書の 採択とは関係ありませんけれども、その購入等についても検討していくべきかと思ってお りますので、参考意見として述べさせていただきます。

また、私は、事務局からのご答弁もありましたけれども、先ほど国語は光村が採択されましたけれども、関連づけている箇所もよくありますので、準じて使ったほうがいいのかなと思うのと、やはり筆や書くときの姿勢ですね。鉛筆とか筆の持ち方をしっかりと子どもたちが見てわかりやすいというのが一番いいのかなと思いますので、そんな観点から私は教科書を選びたいなと思っております。

○海野委員 今回光村の教科書の中に、キャラクターの動きで、猫が、とめ、はね、払いと書いてあるので、鉛筆のところにキャラクターを使って、わかりやすく鉛筆が使えるように工夫されていると思います。払いとかはねるというのは毛筆でもつながると思うので、低学年のうちにこういう筆圧の加減を習っておくと、筆使いのときにも楽しく学習できるのではないかなと思いました。

あと書写は姿勢が大切ですので、姿勢づくりを学べるというのは良いのではないかなと 思いました。

- **〇伊藤教育長** 東書のほうもはねとかは入っていますね。姿勢等についても出てきています。
- ○酒井委員 私は左ききで、書写のときにいつもお手本が見えなくて書くのがすごく大変だった覚えがあるので、お手本の下に書く欄がある教科書は左ききの子に優しいなと思いやりを感じます。その中でも教出は、授業が始まる前に試し書きをして、授業で学んだ後に、じゃ、その学びを生かして書いてみようという「まとめ書き」という欄ができていて、書写の授業が字を書く作業だけに終わってしまうことなく、どういうところが自分の学びになったのかというのがわかりやすいのではないかなと感じます。
- ○伊藤教育長 左右の利き手が違うと、小学校では矯正されるのですか。
- **○酒井委員** 左ききは直さないといけないと言われて、大人になっても、小さいころに直 さなかったのと言われることがありました。これは多分、矯正して右ききにする人もいる と思うのですけれども、なかなかにつらいことで、直らないのですね。
- **〇伊藤教育長** でも、書写の授業で実際に筆を使って書くときにそういう配慮があるとい

うことは、1つ大事なことだということですね。初めて気がつきました。

- ○松樹委員 恐らく時代の話なのだと思うのですが、全く矯正されずに、そのまま生かして授業を行うこともありますよね。
- **○酒井委員** 今は直さない左ききの子が増えているのではないかと思います。
- ○伊藤教育長 今は矯正することはほとんどないということですね。
- ○平井委員 各会社も見させていただいて、とても楽しい紙面づくりとか構成をしてくださっていて、何十年前に比べたらとてもカラフルで、いい書写の教科書ができ上がっているのだなと思いました。今まで指導してきた立場としては、国語の教科書に似たものが学校としては指導しやすいと思います。子どもたちも割とスムーズに学習に入っていけるかなとも感じますので、国語の教科書に準じたほうがいいのかなとは思います。特に光村の2年生で点と画の名前というのがあるのですが、そこに払いとか、曲がりとか、折れとか、動物や虫を使って、とても楽しく、イモ虫横画とかなんか、授業の中で教えていける楽しい構成になっていると思います。

ただ教えるだけでなくて、子どもの興味づけをしながら指導できるというのではとても 興味が持てる1ページだと思いました。

○伊藤教育長 ほかにはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、小学校教科用図書「書写」について採決をいたします。目録順に読み上げますので、挙手をお願いいたします。

(举 手 採 決)

(東書0票、学図0票、教出1票、光村4票、日文0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の4票を得ました光村を採択することに決定いたします。

それでは「書写」の採択についてはこれで終了いたします。

次に、小学校教科用図書「社会」の審議に入ります。

それでは、秋山委員長、社会の報告をお願いいたします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 社会は、東書、教出、日文の3社です。報告書3ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、学習指導要領「社会的な見方・考え方」に関連して、「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と考え方を働かせることにより深い学びが実現できるよう工夫されてい

る。また、学習場面に応じた学び方を「まなび方コーナー」で具体的に示し、系統的(見る・聞く・読み取る・表すなど)に学習技能を身に付けることができるようになっており、各巻の目次ページで一覧できるように配慮されている。さらに、問題解決的な学習の進め方ができるように、左ページ側注に「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の4つで構成されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、児童から「問い」を引き出すうえで、効果的な教材や資料が記載されている。 追及に一貫性が保たれるようにする工夫として、「次につなげよう」が各見開きの末尾に 記載されており、つながりや見通しをもった学習過程になっている。また、「社会的な見 方・考え方」の視点や方法が、「ふきだし」等を用いて自然なかたちで引き出されるよう 工夫されている。さらに、各学年1冊にまとめられており、年間を通したフレキシブルな 活用ができ、柔軟なカリキュラム編成が可能である。学校からは、「児童の実態からみて 適切である。」という意見が多くあった。

日文は、学習指導要領社会科の目標に関連して、「見方・考え方コーナー」を設定し、 且つ児童の素朴な問いや問題を話し合うところから学習過程が構成されている。社会的事 象の見方や考え方が明確になり、主体的・対話的で深い学びへとつながるようになってい る。また、単元のまとめ「わたしたちの学びを生かそう」で、社会科の見方・考え方を働 かせることができ、児童が自主的に学習に取り組める内容となっている。さらに、吹き出 しを効果的に使い、意見を出し合いながら児童の考えが深まっていく学び合いの場面がイ ラストで提示されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工 夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

- **〇伊藤教育長** 社会は発行者が3つということでございます。それでは、ただいまの報告 についての質問はございませんか。
- **○酒井委員** 高学年が2冊に分かれている会社と分かれていない会社とあるのですけれど も、それについてのご意見というのは何かありましたか。
- 〇秋山採択資料作成委員会委員長 委員からは分冊のほうが教科書が軽くなってよいという意見がありましたが、学校からは1年間の学習を振り返ることができる1冊がよいという意見がありました。
- **〇伊藤教育長** さっきの教科書もそうだったけれども、5・6年生になって、分冊で、東書は歴史と政治、国際で分かれています。確かに社会って、実際は資料集があったり、ほ

かに副教材があったりもするので、かなり重たいというか、いっぱい持たなければいけないところがあるので、東書の工夫はおもしろいかなと私自身は思うところです。

和田教育支援課長、例えば題材が姫路を取り扱っていたり、横浜を取り扱っていたりするわけではないですか。でも、3年生は地域学習そのものだから、教科書は全国的に1つの形として扱っているのだけれども、海老名市としては地域教材のものはどのような考え方ですか。

- ○教育支援課長 地域学習につきましては、3年生では市が発行している「わたしたちの海老名」、4年生では県が発行している「わたしたちの神奈川県」を副教材として児童に配付しております。これらを活用して授業をしているのですけれども、この場合においても、教科書に示されている学習の流れは学習指導に生かしております。学習の流れは教科書、実際の題材としては副教材を利用しています。
- ○伊藤教育長 ということは、教科書と副教材と地図帳とか、みんな持つのですか。
- **〇教育支援課長** そのとおりでございます。
- **〇伊藤教育長** 海老名市の実態としては、学校ごとの地域学習についての指導計画が立っているのでしょうか。例えば消防署や交番の見学とか、清掃工場の見学とか。交番だって、近くに交番があるところもあれば、ないところもあるだろうから、それは各学校、どんな形ですか。
- ○教育支援課長 各学校の地理的な条件もありますので、学校から見学に行くのが可能な場所であればそこに行って、実際に見学をして、また、そちらの方にインタビューなども行っております。また、学校によっては校外学習で少し電車に乗って、遠くのほうまで社会の学習に関連して出かけている学校もございます。
- **〇伊藤教育長** 東柏ケ谷小学校で農家の方へインタビューするには綾瀬市のほうに行かないとできないから、そういうときにこれを使うのかな。

それでは、委員の方々からご意見等ありましたらお願いします。

○海野委員 今、地域学習のお話がありましたが、教出は3学年で、市町村について調べるとか、四季の移り変わり、市の様子、消費の流れというコーナーの中で、やはり神奈川県の横浜あたりを扱っているのが掲載されているので、学習する面においては子どもたちが理解しやすい内容ではないかなと思います。6年生では「政治の働きをまちの中から探してみよう」というところで、川崎市の踏切が地下通路に整備された様子が掲載されていましたので、教科書を見せていただいたときに、ああ、子どもたちにとってすごくわかり

やすい内容だなということが印象的でした。

6年生の年表は4ページにわたって見開きになっているのが掲載されていたので、これは子どもたちの興味を引くのではないかな、わかりやすいのではないかなという印象を持ちました。

- **〇伊藤教育長** 教出は神奈川県を題材にしているということですか。
- 〇海野委員 はい。
- ○伊藤教育長 わかりました。
- **○酒井委員** 教出は神奈川県、横浜市が全面に出ているので、生活科から社会科という学習に入ったときに、子どもたちが、あっ、横浜知っている、という気持ちになって、授業に入りやすいのではないかなという気がします。

高学年の歴史とかになると、東書は分冊になっている分、今までにあった事実を暗記するような流れではなくて、そのときに歴史上の人物がどのように考えてこのようになったのか、歴史上の人物の気持ちになって、そのときの言葉を自分で書いてみようというようなテーマがあったりとかするので、それは主体的に学習するという意味ではとても良いことだと捉えました。

○松樹委員 先ほどの教出の話ですけれども、3年生に横浜が載っていて、神奈川県の全部の市町村の名前が地図で載っていますので、身近に感じてもらえるのではないかなと思います。

それと今、酒井委員からもありましたけれども、歴史と政治、国際、東書は分かれておりますけれども、そちらのほうが読みやすくて、分かれているといいなというふうに思いました。しかし、学校の意見では、振り返りをすることができるため1冊のほうがいいという意見もあるので、真っさらの子どもたちが初めて歴史を学校で学ぶ中で、やはり1つ1つ振り返りができていけるような教科書の方が良いのかなと思うと、選ぶのが大変難しいところだと感じております。

その他、教出は、先ほど委員長の報告にもありましたけれども、末尾に次につなげようというコメントが載っていて、子どもたちは、次は何なのだろうかと。歴史もそうですが、次はどうなっていくのだろうかとか、本当に興味を持ちながらページをめくってもらえるような工夫がされているのではないかなと私は思っております。

〇伊藤教育長 学習過程上、子どもたちが次につなげられるような工夫がなされているということでございますね。

〇松樹委員 はい。

〇平井委員 高学年になればどの教科書でも学べるかなと思いますが、3・4年生の教科書では、全国を扱っているわけで、地域学習につながる部分ではどうなのかなという観点で見ていくと、やはり身近なものが載っているほうがいいかなと思います。

教出の4年生で「水はどこから流れてくるのか」というのがあるのですが、相模川上流の相模ダムや城山ダム、相模湖等を載せているのですね。そういうところからすると、上流にはこういうダムがあり、それがずっと流れてきて海老名につながるという4年生の学習につながっていきますので、そういう点からは割と身近な形で捉えられていくのではないかなと思います。

2冊に分かれているところもあって、分冊は中学校の学習に結びつけるという点では、 高学年にとってはこれから必要なところだろうなと思うのですが、小学校では決められた 時間の中で、いろいろな角度から勉強しなければいけませんし、振り返りもありますの で、1冊の中で勉強させていったほうがいいのかなと思います。それ以外のところは資料 集を使う等、学校で子どもたちの実態に合った使い方をしていると思いますので、分冊で なくてもいいのかなと考えております。

○伊藤教育長 1つは地域学習ということで、3・4年生はそこからスタートして、広がるわけですけれども、そういう中では、先ほどのように「わたしたちの海老名」とか「わたしたちの神奈川県」があるにせよ、教科書の中に出てきたほうが子どもたちとしては取り組みやすいことは確かなのだろうなということが今のお話で出ました。

あとは分冊ですけれども、来年中学校になれば社会科でもそれぞれの領域ごとに、地理とかなんかで考えることですけれども、小学校もこれからひょっとしたら高学年はそういう方向で教科書をつくることも必要になってくるのかもしれないですね。それを感想として私は持ちました。

それでは、社会科についてはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それぞれいただいたご意見の中で、やはり地域学習とはいえ、身近なものが扱われていることが子どもたちにとってはよりよいのではないかという意見が大きいかなと思っております。

それでは、読み上げます。社会科でございます。

(举 手 採 決)

(東書0票、教出5票、日文0票)

○伊藤教育長 それでは、以上の結果、最多の5票を得ました教出を採択することに決定 します。

それでは「社会」の採択については審議を終了いたします。

続いて「地図」をお願いします。

それでは地図の報告を、秋山委員長、お願いします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 それでは、地図の報告をいたします。地図は、東書、 帝国の2社です。報告書4ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただき ます。

東書は、外国語の授業に活用できるよう、世界地図に国名および大陸名と海洋名の英語表記を併記している。また、等高線を細かく分けたり、地図上に路線名・主要道路名などの情報を載せたりなど、より細かな情報を得ることができる。さらに、冒頭の世界と日本のイラストマップで、世界や日本の様々な事物を紹介し、児童の意欲を喚起する内容になっている。学校からは、「統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達の段階に即したものが適切に取り上げられている。」という意見が多くあった。

帝国は、児童が主体的に地図帳を活用する中で、地図活用の技能や「社会的な見方・考え方」の育成につながる問い「地図マスターへの道」を設けている。また、学年に応じた使い方ができるよう配慮されていて、地図の見方を最初に詳しく説明し、楽しく地図に親しめるようになっている。さらに、防災や災害についての資料が豊富に記載されている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

〇伊藤教育長 それでは、委員長の説明についてのご質問はいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ご意見ということなのですけれども、海老名市では帝国の地図帳をずっと使ってきました。そういう中で東京書籍ということで、また、3年生から地図帳を使用することにもなっている中で見ていただきたいのですけれども、私のほうは、3年生から地図を使うとなると、東書の最初の「WORLD MAP」みたいな、この辺はおもしろいかなと思いました。だから、単なる地図帳というだけではなくて、すごくおもしろみがあって、この辺を考えると、地図は、3年生、4年生用の地図、5・6年生用の地図は分けないのかなと逆に思ったりもします。3年生から6年生までの幅広いものを吸収するも

のになると非常に難しくて、5・6年生になったら、逆に地図帳の中にそんなに人が出てこなくても地図での学習を楽しめるし、3・4年生だったらこうやって人が出てきて紹介してくれたほうがおもしろいから、これは会社のほうで3・4年生用の地図と5・6年生の地図で分けないのかなと単純に思ったりもしたところでございます。

ただ、それぞれ良さがあって、東書は3年生とか4年生の初めて見る子にとっては地図 帳としてのとてもおもしろい面が含まれているなというのが私の感想です。

それでは、委員の皆様、いかがですか。

○松樹委員 今、教育長からもありましたけれども、4年間使う教科書というのは初めてではないかなと思うのです。全く教育長がおっしゃった3・4年生、5・6年生用の地図帳があってもいいのではないかなと私は思っております。3年生から使うということで、2社とも本当に絵が多くなったなという気がして、私はもう少しシンプルでいいのではないかなと思っております。4年間使うということも考えて、先ほど報告にもありましたけれども、地震が叫ばれている中で災害の資料ですね。ほかの教科とも関連づけて学べるのではないかなと思いましたので、そんな観点から発行者を選びたいなと思っております。

○海野委員 先ほど教育長がおっしゃったように、3年生から地図学習をする場合、東書の「発見!わたしたちの日本、まちを上から眺めてみよう、上から見ると地図になるよ」という取り組みは、地図学習に取り組みやすい内容と思います。「地図のぼうけんに出発!」というところで、世界各国の文化や歴史などのイラストが掲載されていて、子どもたちに、社会はこういうことなのかなという関心、興味を深められる内容になっているのかな、3年生にとっては。

あと、途中で出てくる「日本の歴史と世界のかかわり」というところは、地図を見ながら歴史を感じられるという点ではわかりやすいように工夫されているのではないかと思われました。

○酒井委員 私は帝国書院の最初の3ページ、見開きのところ、日本という国が中国と、韓国と、また、北朝鮮やロシアとこういう位置関係にあるのだなというのを改めて感じる地図だなと思いました。日本の土地はすごく山が多くて、平野が少ないというのも見ただけで感じ取ることができるし、このように横長に日本が国土を持っているのをとても感じることのできるページだなと思いました。ここのページに限って言うと、絵も入っていますけれども、すごく端っこのほうで、日本の国の形がよくわかるような地図だなと思います。

○平井委員 3年生からの使用ということで、地図をどちらの会社も楽しく学べるという 点で導入の部分をつくり上げてくださっているのだなと思います。統計などは東書は割と 多く、広いページをとって、わかりやすさという点ではとても見やすいかなと思います。

ただ、地図の上にキャラクターが多過ぎて、3年生、4年生の学びであるならば、これでもいいのかなと思いますが、5・6年生の学びとして中学校へ繋げる学びをと考えたときに、この地図帳でいいかなということと、4年間、この地図を使っていくというのも、中学年と高学年で分冊になってもいいのかなという思いはします。

○伊藤教育長 ほかにはいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 それでは、目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。地図でございます。

(拳 手 採 決)

(東書1票、帝国4票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の4票を得ました帝国を採択することに決定します。 大変申しわけないのですけれども、議会の日程がありますので、ここで暫時休憩とさせていただきます。

(休憩)

○伊藤教育長 それでは引き続いて、会議を続けます。

続いて、小学校教科用図書「算数」の審議に入ります。

海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を、秋山委員長、お願いします。

〇秋山採択資料作成委員会委員長 算数は、東書、大日本、学図、教出、啓林館、日文の 6社です。報告書5、6ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきま す。

東書は、単元末が「いかしてみよう」「たしかめよう」「つないでいこう算数の目」の3つで構成されていて、数学的な見方・考え方に焦点化した問題が出されている。また、つまずきの多い内容では、特に丁寧な授業展開ができるようになっている。さらに、数直線やテープ図などを手掛かりに立式しやすい工夫がされている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

大日本は、「読み取る力をのばそう」では、学習を活用する力や情報を読み取る力、根

拠を説明する表現力・活用力を身につけられるよう工夫されている。また、「ひらめきアイテム集」では、児童が数学的な見方・考え方をメモすることで、その後の課題解決で繰り返し見返すことができる。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、図を活用できるように、1年生から系統的に図の学習を取り上げ、4年生からは4マス関係表を取り入れることで、発達段階を考慮した学習の工夫がされている。また、「ふりかえろうつなげよう」では、児童が自ら学習を深められるよう条件を変えて発展的に考えることもできるようになっている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、学校教育法に関連して「生きて働く知識・技能」の習得に向け、典型的な誤答に対して、対策として「考えるヒント」を掲載し、丁寧な指導に繋げている。また、問いからめあてをつくり、問いを深めたり多面的・多角的な考え方につなげたりする問いの連続で深い学びを目指す構成になっている。学校からは、「児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、かながわ教育ビジョンに関連して「広がる算数」では、様々な職業の方にインタビューし、算数と人生や職業との関係を紹介し、キャリア教育の視点が示されている。また、テープ図や線分図等を系統的・継続的に用いることで、数量関係に着目して演算等を考えていくことができるように工夫されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

日文は、学びをひろげる多彩な問題を収めた巻末の「算数マイトライ」では児童の習熟度に応じて取り組める工夫がされている。また、読みやすい文節での改行や、見分けやすい色使いや枠囲み、網かけなど、インクルーシブ教育の視点で紙面が構成され、全ての児童が理解しやすい工夫がされている。学校からは、「体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

- ○伊藤教育長 それでは、委員長の報告についてご質問等があればお願いいたします。
- ○海野委員 ただいまのご報告の中に、教出のところなのですけれども、「典型的な誤答に対して、対策として『考えるヒント』」とございましたけれども、調査員の方から具体的な説明はあったのでしょうか。
- 〇秋山採択資料作成委員会委員長 調査員からは、教出の3年生、40ページを例に挙げ

て、ページ下によくある間違いを掲載しているという説明がありました。また、考えるヒントは単元のまとめに掲載して、既習事項を振り返るようになっています。

○伊藤教育長 ほかに質問等は大丈夫ですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、もう1度目を通していただいてから協議に入りたいと思います けれども。

それでは、ご意見等ありましたらお願いいたします。

○松樹委員 東書の1年生は大判というか、A4判を使って、大きいのですね。1年生が これから数に親しむ中で、非常に読みやすくて、わかりやすいのかなという気がして。中 身もそうですけれども、大判でわかりやすいかなという気がしております。

また東書の、単元の末が「いかしてみよう、たしかめよう、つなげていこう算数の目」。これは子どもたちに学習の流れとか、本当にわかりやすく、体裁よくなっているのではないかなと思っております。

また、ほかの発行者ですけれども、1点、キャラクターが多く出てくるところがあるのですが、多過ぎると、子どもたちが理解できるのかなという気がします。ほかの教科もいっぱい出てくるところもあるのですが、適度にというのが一番いいのかなという気がしております。

ちょっと話の観点がずれましたけれども、そんな中で、私は東書の教科書が一番読みや すくて、子どもには合っているのではないかなと思っております。

○酒井委員 今回プログラミングが算数の教科書にも取り入れられていて、海老名市もパソコンからタブレットに移行しているので、それを十分に生かしきれるような教科書がいいのかなと思います。特に東書はタブレットで、簡単に2次元コードを読み込んですぐにプログラミングのサイトに行くことができて、コンテンツも充実していて、難しいプログラミングにスモールステップで少しずつを取り組んでいくので、学びやすく、もっとやってみたいという子どもたちの声を聞きます。続きは家でも取り組めますし、そのように幅のある、もっとやりたいという子の気持ちに応えられる教科書なのかなと思います。

なおかつ、東書の中に「覚えているかな」というコーナーが何回も出てくるのですけれ ども、そのコーナーは前にやった部分の復習を入れ込んできているので、子どもたちの学 習の定着が図れるのでいいなと思います。

〇伊藤教育長 和田教育支援課長、今、酒井委員からプログラミングということなのです

けれども、例えばどんな単元でプログラミングの教材が取り扱われたりするのですか。

- ○教育支援課長 今回の学習指導要領でプログラミングが明示されたものは正多角形の作図でございます。
- ○伊藤教育長 正多角形の作図は、去年、上星小学校のプログラミング授業でやったのと同じ、何度曲がって、進んで、結果的に多角形ができ上がるというものですか。
- ○教育支援課長 海老名市が取り組んでいるプログラミング学習の先行実施でやった公開 授業と同じ内容でございます。
- ○海野委員 算数という教科は本当に最初が肝心で取っかかりでつまずかないように取り組んだほうがいいと思っています。その点、東書は子どもたちにとって理解が深まるよう、きめ細やかに表現されていて、また、理解を定着させるための要素をとても豊富に入れ込んで構成されていると思います。中でも単元のまとめで、「たしかめよう」「覚えているかな」と表現されていますけれども、理解度が確認できるようになっています。問題の中でイラストが描かれていて、自分の考えを深めるにはどうしたらいいかなと迷っている場合、ちょっとでも次の単元に進んでいけるためにわかりやすく配慮されているのではないかなと感じました。
- ○平井委員 算数の教科書を見させていただいて、どの会社も本当に丁寧な教科書づくりをしてくださっているなと思いました。どの教科書で教えても良いなと感じられるようになっていて、イラストや吹き出しも入れながら、子どもたちが楽しみながら学習が進められるという点ではどこも工夫がされていると感じました。

東書が今年は別冊で1年生をつくり、サイズ的に見やすくなって、内容的にもすごくいいかなと思っています。導入の段階で数字を書く升目も多分ノートに準じた大きさになっているので、そういう点ではノートへの移行もスムーズにできるのではないかなと思いますし、1年生では10までの数の構成、分解が非常に大事なのですが、そのあたりもとても丁寧なつくりをしてくださっていますので、そういう点では1年生への導入としては、とてもいい教科書づくりがされたのではないかなと思います。

〇伊藤教育長 和田教育支援課長、私から質問なのですけれども、海老名市内小学校はここ数年、今年は道徳の研究を校内研究の題材としているところが多いのですけれども、その前は算数が結構多かったではないですか。その中で我々は、それまでは東書を使ってやっている中で、テープ図とか垂直線とかを先生たちが使いながら授業を展開するということで校内研究をしたのだけれども、その効果はどのように指導係として捉えていますか。

- ○教育支援課長 長い期間、東京書籍の教科書を使っているので、先生方は学習の流れ等は、その流れで学習を組んでいるというか、そういう面は確かにございます。授業をする者として、学習のしやすさというところは教員の中でも培ってきたものがあるようには感じております。
- ○伊藤教育長 では、思考の流れとして、どこの校内研究でも、問題を出すときにはテープ図とか数直線に表して考えるということをやっているわけではないですか。それは、啓林館とかにも記載がされていて、ほとんどの教科書で使っているのだけれども、校内研究で取り扱った結果として、その手法については問題ないということでよろしいですか。
- ○教育支援課長 はい。
- ○伊藤教育長 わかりました。ありがとうございます。

松樹委員が言うように、キャラクターはこんなにいなくてもいいのではないかという気持ちはあるのですけれども、ただ、丁寧なのは本当に丁寧ですね。どこの会社のものを見ても。だから、そういう中で、海老名市としてということで。ただ、東書が良いということで具体的にご意見をいただいたところでございます。

それではここで、採決ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、小学校教科用図書「算数」について教科書目録順に発行者を読み上げますので、挙手をお願いします。

(挙 手 採 決)

(東書5票、大日本0票、学図0票、教出0票、啓林館0票、日文0票)

○伊藤教育長 東書5票、大日本、学図、教出、啓林館、日文については0票ということで、最多の5票を得ました東書を採択することに決定します。

「算数」の採択についての審議をここで終了いたします。

この後、理科をやると12時を回ってしまうので、ここで午前中の分を終わって、理科は 午後、13時から再開します。

暫時休憩といたします。

(休憩)

〇伊藤教育長 それでは、審議を再開いたします。午後もよろしくお願いいたします。秋 山委員長、よろしくお願いします。 小学校「理科」の審議に入ります。

海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告を委員長にお願いします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 それでは、理科の説明を始めます。理科は、東書、大日本、学図、教出、信教、啓林館の6社です。なお、信教は見本本が送付されませんでしたので、調査はしておりません。報告書7、8ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、教育基本法第2条に示されている「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」に関連して、全ての単元導入に課題をつかむための活動「レッツスタート!」を設定し、話し合いを通して深い学びが実現できるように工夫されている。また、児童が思考するヒントとして、「学んだことを使おう」が設定されており、他教科の既習事項や生活経験を関連付けながら、系統的に学習が進められるように配慮されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

大日本は、「りかのたまでばこ」「サイエンスワールド」を多数掲載することで、児童の知的好奇心に応えるとともに、算数科と関連する折れ線グラフの表し方や読み方、生活科と関連するおもちゃづくり等の内容が掲載されており、他教科へ学びがつながっていくように工夫されている。また、単元の中で「〇年で学んだこと」があり、既習事項と関連させて学習できるように工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、巻末「考えよう調べよう」では、実験器具の使い方などの技能のほか、「伝える・聞く」「記録する」「調べる」など、学習で必要な技能についても記載してあり、科学的な見方・考え方が、発達段階に応じて育成されるように工夫されている。また、問題解決の力を確実に身につけられるように、単元配列及び内容が工夫されている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

教出は、学習指導要領の改訂の要点に関連して、各学年の発達段階に応じ、挿絵やキャラクターのコメントが工夫されており「理科の見方・考え方」を働かせ、観察実験の基本的技能を身につけられるよう配慮されている。また、目的意識を持って実験に取り組めるように、「見つけよう」「予想しよう計画しよう」「結果から考えよう」「学びを広げよう」と、児童の思考に沿った構成になっており、科学的思考を育む構成になっている。学校からは、「観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や

内容の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、教育基本法第2条に関連して、男女の役割を固定せず、児童一人一人が主役になれるよう、互いに協力しながら活動を進めている写真やイラストを掲載している。また、観察・実験の方法や手順が詳しく記載されており、児童が見通しをもって自ら観察・実験を行えるように工夫されている。さらに、「別の方法」も提示されており、複数の観察・実験などから得た結果を基に考察できるように工夫されている。学校からは、「児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

- **〇伊藤教育長** それでは、ただいまの説明に対してご質問等ありましたらお願いいたします。
- ○松樹委員 今の報告書の中で質問させていただきます。学図の中で「問題解決の力を確実に身につけられるように、単元配列及び内容が工夫」と書いてあるのですが、こちらに関しまして調査員から具体的な説明があったのかどうか、ご質問させていただきます。
- ○秋山採択資料作成委員会委員長 4年生の単元配列を例にして説明がありました。5年生の理科は、年間を通じて条件をそろえて、実験や観察をすることがテーマになっていますが、学図は天候に左右されない振り子の運動を学年の最初に学習することで、その条件整備をしっかりと押さえる工夫があるという説明がありました。
- **〇伊藤教育長** それでは、皆さんと協議したいと思いますので、ご意見等ありましたらお 願いいたします。
- ○酒井委員 先ほどの質問にもあったのですけれども、確かに学図は学習の流れがわかりやすいです。調べるときの考え方で条件整備というのが5年生はコアになっていますという話だったのですけれども、3年生は比べる、5年生は条件をそろえるというように、各学年、教科書の最初の4ページのところに必ず書いてあります。そうやって1年かけて、その単元自体を勉強するだけではなくて、実際のものを観察したりするための見方を育てるということができるのかなと感じます。
- **〇伊藤教育長** 学図についての意見がありましたけれども、ほかにはいかがですか。
- ○海野委員 今もお話しありましたけれども、ほかの教科書もそうだと思いますけれども、特に学図は問題解決の過程、「わかったことをまとめてみよう」というチェック欄も設けられていて、進めやすいのではないかと思います。また、「問題を見つける」から、「結果、わかったこと」まで、写真も同じような流れで説明されているのですごくわかり

やすいと思います。

特に私が感心したのは、3年生の音を伝える、音が出てくるときの様子というところで、太鼓の上に紙吹雪が置いてあって、叩いたときにその紙吹雪が動いている様子が出ているのですね。それはほかの教科書にはなかったことで、学図はこのように状態の動きが紙面上で伝わっているということで、見ているほうでも驚きがありました。

また、単元の導入の際の見出しは、大きな写真があって、単元の表題を書かれているので、とてもインパクトがあって、工夫されていると思いました。

○松樹委員 今、各委員から出ていたご意見に似通っているのですが、学図に関しては、質問させていただきました単元配列の工夫だとか、学校の先生たちも使い勝手がいいといいますか、季節に合わせたりしていますので、時間やポイントに合わせて使えるのではないかなと思います。問題を見つける、調べる、結果、わかったことという流れで、体系的に学習できますので子どもたちが理解しやすいのではないかなと思います。また、学図の6年生で、今回改訂された学習指導要領で電気の性質とはたらきという単元でプログラミングを体験する学習が加わったと思うのですが、この部分を各発行者で比べてみますと、やはり学図が一番わかりやすく、かつ詳しく載せてありまして、海老名はICTでタブレットを整備しておりますけれども、タブレットを使ってのプログラミングを体験しやすいのではないかなと思っております。

全体を通して、各発行者とも写真がすごくきれいに載っているなという印象を受けました。

○平井委員 どの会社も紙面は丁寧につくられていますし、理科ですから、カラー色もきれいに出ているかと思います。でも、細かく見ていくと実験の中などでは、用具の使い方、ビーカーを使うとか、フラスコを使うとか、そういうところで多少の違いは出てきているのかなと思います。それから、星や月の扱いも多少違いますし、地層も多少違うのかなという感じがします。あとは、乾電池の使い方とか、そういう細かいところなのですが、子どもたちが見て、どこが一番わかりやすいのかなということと、もう1つは教科書の紙面づくりとして、うまくページを使って実験の流れを捉えられるようにつくられていたりします。結構いろいろなところで違いが出ているのかなと思いますので、そのあたりを見ていきたいなと思います。

また、問題とか、予想とか、計画するとか、そういう実験の手順はきちんとされていま すので、理科の学びとしては、しっかりとした教科書づくりがどの会社もできていると思 います。

○伊藤教育長 平井委員は教師の経験がありますけれども、理科はこうやって見ると東書だけが大きい判で、実験のときに大きな教科書は不便だったりしませんか。実習とか作業をするときに大きな教科書を広げていると邪魔になるかなと思ったりもするのですけれども、

〇平井委員 作業、活動が入るものは、常に教科書を使うわけではなくて、必要に応じて 閉じたりもしますので、邪魔にはならないかと思います。ただ、学校の机の大きさも決ま っていますので、その枠の中でやらなければいけない。理科室に行けば理科の机がありま すけれども、そこはまさしく実験の場のテーブルになりますから、教科書はある程度の大 きさがあれば十分かなというふうには思います。

○伊藤教育長 こうやってさまざまな教科書が出ていて、確かにどこの教科書も問題解決の学習過程がわかりやすく説明されています。私としては、子どもたちには観察するとかまとめるという作業を丁寧にやってほしいなと思っていまして、啓林館は昔からそうなのですけれども、手書きのような形で、子どもたちが書いたような記録が常に観察ノートみたいにして例示されているので、すごく身近な感じがするかなと。自分でノートにそういう観察とか実験のまとめをするのに近い感じがするかなと。だから、写真、実写のほうがインパクトがあるし、見やすいのだけれども、案外手描き風のものの方が子どもたちには親しみやすいかななんて思ったりもします。全体のつくり、問題解決の学習過程はどこも本当に、言葉は違うけれども、どんどん丁寧に、問題解決に沿って教科書をつくられているので、そういう意味で言うと、子どもたちがノートを書くのに1つの参考にもなります。特に実験観察で子どもたちがよく観察するとか、丁寧にものを見るとかなんかというのは、理科にとっては必要なことかなと思ったりもするところです。私はそのような感じがしました。

それでは、皆さん、私が言う前に学図のここがいいとおっしゃられるのであれなのです けれども、採決をいたしますけれども、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

(挙 手 採 決)

(東書0票、大日本0票、学図4票、教出0票、啓林館1票)

○伊藤教育長 それでは、以上の結果、最多の4票を得ました学図を採択することに決定 いたします。 令和2年度使用小学校教科用図書「理科」については以上といたします。

続きまして、小学校の「生活」の審議に入ります。

それでは、秋山委員長、よろしくお願いいたします。

〇秋山採択資料作成委員会委員長 生活は、東書、大日本、学図、教出、信教、光村、啓林館、日文の8社です。なお、信教は見本本が送付されませんでしたので、調査をしておりません。報告書9、10ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、児童の学習上の困難さへの対応について、観察して気付いたことを表現し考えるヒントをまとめた「かんさつずかん」が設けられ、気付きの質を高める工夫がされている。また、教科書がA4サイズで大きく見やすい。巻末に季節ごとの生き物の写真を数多く載せた「ポケットずかん」が添付され、切り取って携行し学習に活用できる。実物大の大きさで、図鑑のように見やすい。学校からは、「知識及び技能の基礎としての「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」という意見が多くあった。

大日本は、生活科の活動や体験が他教科の学習へと広がり発展すると同時に、他教科領域の学習成果が生活科の活動に生きるよう、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図るための工夫がされている。また、サイズの違うページや透明シートを使用した仕掛けのあるページ、モノクロ表現でイメージをふくらませるページを設けるなど、それをきっかけとして具体的活動が生まれるような工夫がされている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、単元の終わりでは、ふり返り場面の充実が図られており、多様な表現をもとにこれまで学んだことや自分の成長に気付けるように『まなびかた図かん』が掲載されている。また、身近な動植物が大きく描かれており、特徴を捉えやすいイラストが多く、児童の興味関心を引き出すための効果的な工夫がなされている。学校からは、「体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、主体的・対話的で深い学びとなるように、「振り返り」に関連して単元の最後に「なにをかんじたかな」で自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されている。また、ページ右上のヒント欄では、「見つける、比べる、例える、試す、見通す、予想する」などの学習活動を繰り返し提示することで児童の興味関心を喚起させるような工夫がされている。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあ

った。

光村は、各単元を「ホップ、ステップ、ジャンプ」の三段階で構成し、学習のスタートからゴールまでを児童が把握しやすいよう構成され、学習過程に沿って確実に力がつくように工夫されている。また、ユニバーサルデザインを意識し、優しい色合いで、全体的に文字の分量が少なく、児童自身のつぶやきや気づきを大切にした構成になっている。学校からは、「児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、スタートブックやステップブックでは、学びのつながりと広がりに配慮し、 1年生では安心して学校生活が始められるように、また、幼児期の学びから上位学年の学 びへと円滑に移行できるように工夫されている。さらに、次の活動への思いや願いを右下 の「めくり言葉」で例示しており、活動が単発的にならず、スパイラルに深い学びが実現 できるよう工夫されている。学校からは、「身近な人々、社会及び自然を自分との関わり で捉える題材として、工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

日文は、具体的な活動をイメージしやすい活動写真や吹き出しが多く、児童の考えを引き出しやすくなっている。特に「おもちゃずかん」や「あそびのひろば」が充実しており、児童が主体的に活動できる。また、多様性への配慮として、挿絵の中に外国にルーツを持つ児童や、車いすを利用している人が描かれている。さらに、巻末には盛り上げ印刷された点字や手話が紹介されている。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 それでは、生活ですが、今の報告についてご質問等あればお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

- **〇伊藤教育長** それでは、協議を行いたいと思います。ご意見等ありましたらお願いいた します。
- ○海野委員 1年生が初めてこういう生活という教科に触れるに当たって、導入として、 啓林館は幼稚園生と1年生が握手しているところから始まっていて、東書は学校の1日から始まって、本当にそれぞれ入学から学校生活の流れが掲載されて、早く学校になじめるように工夫されていると思います。また、東書はA4サイズですが、さっきも委員長がおっしゃったように「ポケットずかん」のほうでより大きな、実物大の写真が掲載されて、深く観察することができるように工夫されているのではないかと思います。

- **〇伊藤教育長** 東書はここが特徴的ですよね。種があって、芽が出て膨らんで、花が咲いてというのがこうやって見られるというのは、初めてこういうものを見たなと思って。よく工夫されています。
- ○酒井委員 私も海野委員と同じで、東書が「ポケットずかん」とか、先ほどの種から芽になって、花が咲くまでの工夫がすごく楽しいなと思います。子どもが楽しんで取り組むことができる教科書なのではないかなと思います。東書は「かつどうべんりてちょう」が一番後ろのほうについていて、外に出て、フィールドワークをするときの安全のための説明がいろいろ書いてあったりとかするので、安全を確保しながら活動するためにはそういうことも教えてくれているのがいいなと思います。
- 一方、日文は、上巻の後ろのほうですけれども、雑巾の絞り方とか、ちょうちょ結びの 仕方とか、はしの持ち方、服の畳み方、もう当たり前にできるようになるでしょうという だけではなくて、そういうところまできめ細かく資料が載っているというのはいいなと思 います。できない子どもも多いと聞くので、そういうのも資料として載っているというの はすごくいいなと思いました。
- ○松樹委員 どの教科書会社も、児童が楽しみながらページをめくれるようなつくりになっているかなと私は思います。その中でも私は啓林館の「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」というように項目を分けて、子どもたちがこんな気持ちでこのページをめくって学習をしているのだということが分かる作りになっているのが良いなと思いました。
- **〇伊藤教育長** ページをめくって、インデックスみたいなので「わくわく」「いきいき」 「ぐんぐん」と書いている。
- ○平井委員 色々見ていくと本当に迷います。もうそれぞれの会社が工夫をされてつくられているので、どこを使っても子どもたちは楽しく学べるのだろうなと思います。その中でも特に飛びつかせるというか、上下でわくわく、いきいきとか、そのような活動をしているところもいいかなと思うし、写真とイラストの使い分けが各会社によって随分違うのですね。私は動植物などは割と写真で持ってきてもらったほうがいいのかなと思っています。イラストもまたイラストの温かみがあって、すごくいいのですけれども、子どもたちに実物の大きさとか、実際にこういう色なのだよというのを知らせるには写真がいいのかなと思うのです。

啓林館の中で「季節の便り」ということで、春、夏、秋、冬、季節を分けて、その写真の中に歌を入れてくれているのです。春は桜、夏は海、秋は虫の声、冬は雪ということ

で。生活科をやりながら音楽も楽しめるという、子どもたちが全部の体を使って楽しめるというのも1つの学びなのかなと思いますし、子どもの作品を割と大きく取り上げているのですね。子どもたちが記録したものが、子どもたちにわかりやすく載せてあるのも1つの子どもの学びのヒントになっていいのではないかなとは思います。

○伊藤教育長 1・2年生の下、虫の声とかが入っていますね。

あとはまた、教科書の大きさとしては生活科だとどうなのかな。これも私は、細部にこだわるわけではないのですけれども、東書が大きくて。でも、だからこそ、すごくさまざまな絵とか図が載せられているというのもある。子どもたちがこれを持ってフィールドワークに行くことはそんなにはないのだろうけれども、活動する中でどれが使いやすいかなということも考えたりしています。ほかに生活について何かご意見がある人はいませんか。

写真とイラストって、写真の良さはそれとしてあるのだろうけれども、イラストの良さ もあるものね。写真だけわっと載っているのも、イラストだけでも、実際はどうなのかな と思ったりもするし。平井委員が言うように、子どもの作品みたいなものは大体うまく取 り上げてやっているとは思うのですけれども、

では、皆さん、読み上げて採決していただいていいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 それでは、生活についての採決をいたします。目録順に発行者を読み上げます。

(挙 手 採 決)

(東書2票、大日本0票、学図0票、教出0票、光村0票、啓林館3票、日文0票)

〇伊藤教育長 東書が2票、啓林館が3票と確認しました。以上の結果、最多の3票を得ました啓林館を採択することに決定します。

それでは続いて「音楽」に入ります。

それでは、秋山委員長、音楽について報告をお願いします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 音楽は、教出、教芸の2社です。報告書11ページをご らんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

教出は、教育基本法第2条に示されている、「幅広い知識と教養を身に付ける」に関連して、我が国及び諸外国の音楽から様々な時代や曲種の教材が扱われている。『まなびナビ』や『学び合う音楽』で学びのプロセスや話合い活動の進行が例示されており、言語能

力の確実な育成への配慮がなされている。表現の技能の定着を図れるよう、器楽や歌唱教材の導入では細やかなステップアップで構成されている。児童の思考を促すために透明シートや両開きの折り込みなど大きな見開きの写真の頁がある。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

教芸は、学習指導要領に示されている「思考力・判断力・表現力等の育成」に関連して、教科書内のキャラクターが話す吹き出しにより、児童の思考を促す内容となっている。柔軟で弾力的な学習活動が扱われており、児童の実態に応じて活動を選択できるように配慮されている。日本の伝統芸能や童謡について、文化的背景や歌詞の意味が説明されている。児童が1年間の学習の見通しを持てるよう『学びの地図』が示されている。学校からは、「我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

〇伊藤教育長 採択資料作成委員会の報告についてご質問等ありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

- **〇伊藤教育長** 発行者が2つということで、皆さんどちらかを選択することになるところ でございます。
- ○酒井委員 どちらの教科書もたくさん音楽が紹介してあって、子どもたちが音楽に親しむ良いきっかけになる教科書ができているなと感じました。特に私は3年生で習う付点二分音符、付点四分音符の説明なのですけれども、教育芸術社は新しく覚えることとして、付点二分音符、付点四分音符が出てきます。23ページですね。教育出版だと9ページにこんなシートを使って書いてあります。中学校に行っても、歌を歌うとか、リコーダーを吹くというときに、音符の長さがしっかり理解できているかどうかというのはとても大事なところだと思うので、付点音符の理解がシートですごくよく、わかりやすく書いてあるな、すごいなと感心いたしました。
- ○伊藤教育長 先ほど秋山委員長から、教芸のほうは学校からの意見として、「我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に工夫や配慮がなされている」ということなのですけれども、お琴の演奏者である海野委員は伝統的な音楽について何かありますか。
- ○海野委員 今回は両者とも和楽器を数多く取り上げていることにとても感銘を受けました。中でもさっき説明があったように、「我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に工夫や配慮がなされている」ということで、和楽器をさらに詳しく教芸は取り上げていただいているのではないかと思います。本当にうれしく思いました。また、教芸は作曲家や保存会の

方などのお話もコーナーとして掲載されているので、そういうコーナーも子どもたちが親 しみを持てるのではないかと思います。

教出の6年にはジャズとクラシック音楽の出合いという鑑賞のコーナーがあって、ジャズが取り上げられているのですね。ジャズが6年生で触れられるというのはまた、良いことだなと感じました。

- **〇伊藤教育長** 今のコメントはどちらも良いということなのですか。
- ○海野委員 はい、そうです。
- ○伊藤教育長 ちょっと難しいところですね。
- ○松樹委員 私は、両社とも内容的に本当に見やすくつくられているなと思っております。特に教出の挿絵とか、歌が載っている背景だとか、もちろん音符とかの書き方、歌う心といいますか、感情移入がしやすいのではないかなと私は思っております。また、全学年を通じて国歌を取り上げておりますけれども、私は教出のほうが適切に取り上げられていて、載っているのではないかなと思っております。
- ○平井委員 2社ともに楽しい音楽の教科書づくりをされていて、子どもたちは楽しく音楽の学びができるだろうなと思います。どちらで指導しても子どもたちは十分に音楽を学べるのだろうなと思っていますが、細かいところで、例えば1年生の鍵盤ハーモニカの導入などで、教出は五線譜まではいかないけれども、線譜の上にドレミを入れてきているのですね。五線は入っていない、二線ぐらいまでなのですけれども、教芸は1つの枠の中にドドドとか入っていて、それもいいのかなと思うのですが、今後音階を学んでいくのと鍵盤の指使い等を含めると、1年生からこういうものを入れておいていいのかなと思います。このあたりは、五線まではいかないけれども、こういう中で指導していったほうが先々へのつなぎはできるのかなと思います。

あとは、松樹委員からも出ましたけれども、インパクトがあって、3ページぐらいを使って、それぞれの歌の思いをこの中にぶつけられる。子どもたちがその場面を想像しながら歌の中に入り込めるという情緒的なもの、感情的なものが入れ込まれているのも紙面づくりで工夫されている1つかなと思います。

○酒井委員 教科書からリンクで、2次元コードでサイトを見ると、教出はオーケストラの音符の上で今どの楽器が弾いているのかがわかるようなサイトにリンクでつながっていて、それがすごくわかりやすくて、鑑賞する力というのもついてくるのではないかなと思いました。

- ○伊藤教育長 それを見たら、今この楽器が演奏していますというのを確認することができるのですか。
- ○酒井委員 音符の中、バイオリンのときだったらバイオリンの楽譜に印が入る。だから、ウェブの音楽を聞くだけでなくて、この楽器の音がこれなのだというのがわかるようなサイトになっていると思います。
- ○伊藤教育長 紙にあらわされている教科書ではなくて、今年からそこらじゅうにQRコードが入っていますよね。私たちもいくつか見て、感心していろいろな教科書を見ました。子どもたちが歌を歌って教科を進めていくことになりますよね。子どもたちにしてみれば、たまたま海老名の子どもは富士山が見えて「ふじの山」を歌えるのだけれども、富士山を見たことがない子にとっては「富士は日本一の山」とか言われても困ってしまう。でも、前のときもそうだったけれども、教出の「ふじの山」を見ると、ぜいたくというか、ここまでやらなくてもと思うのだけれども、違いはあるよね。歌唱の指導はそれとしても、そういう部分も大きいなと思いますね。

また、教科書は年々つくりが変わってきて、教芸は特にすごく良い感じになったなと 思います。

- ○平井委員 子どもサイドに立ったつくりになってきています。
- ○伊藤教育長 そうだよね。そういうのは大事ですね。
- **〇平井委員** 教芸はどちらかというと中学校の教科書作りがうまいイメージがあったのだけれども、そういう部分では小学校の教科書も良くはなってきた気がしますね。
- ○伊藤教育長 それでは、他にはよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 では、音楽について採決したいと思いますので挙手をお願いします。

(举 手 採 決)

(教出4票、教芸1票)

○伊藤教育長 わかりました。以上の結果、最多の4票を得ました教出を採択することに 決定します。

「音楽」の採択については教出ということで審議を終了します。

続いて「図画工作」に移りたいと思います。

海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告を、委員長、お願いいたします。

〇秋山採択資料作成委員会委員長 図画工作は、開隆堂と日文の2社です。報告書12ペー

ジをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

開隆堂は、見開きに1年間の見通しがもてる「カリキュラム編成目次」が掲載されている。安全や防災につながる後片付けについて、配慮すべき点がマークとともに写真やイラストを用いて具体的に例示されている。知識・技能に関連する内容を各学年の巻末に資料ページとして掲載し、児童が表現活動でつまずいたときなどに参照できるようになっている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

日文は、教育基本法第2条の内容に関連して、「教科書美術館」では、伝統文化や児童の作品を含む多様な造形や美術作品が掲載されている。教育基本法第6条2項の「自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」に関連して、わかりやすい投げかけやヒントとなる写真が掲載されている。主体的・対話的で深い学びを実現するために、導入・展開・振り返りの流れが、分かりやすく掲載されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

- **〇伊藤教育長** それではまず、ただいまの報告についてのご質問等ありましたらお願いいたします。
- ○平井委員 開隆堂の報告をいただいた中に「カリキュラム編成目次」とありましたけれども、調査員から詳細な説明はありましたでしょうか。
- ○秋山採択資料作成委員会委員長 目次に資質、能力の3つの柱に基づく、主に大切な学習のめあてが掲載されています。掲載されていることは、児童だけでなく、評価する教師にとっても参考になるという説明がありました。
- ○伊藤教育長 ほかにはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 それでは、協議に移ります。皆さんからご意見等あればお願いいたします。

こうやってぱっと並べても同じ教科書かなと思ったりするぐらい似ているような印象を 受けます。

- **〇酒井委員** 名前のところもすごく楽しいです。
- ○松樹委員 見ていてとても楽しいですね。子どもたちの作品がたくさん載っていて、すてきな作品が色鮮やかに両社とも載っております。その中で私は、開隆堂の単元の最初に、例えば準備するものがしっかりと載っているのですね。そうすると、ここで何をどう

準備して、どんなことをするのだというのがすごくわかりやすいかなという気がしております。また、その単元の作品をつくるまでの手法がわかりやすく、多く載っているという部分と、海老名では修学旅行には日光に行って、大体の学校が多分ふくべ細工をつくられると思うのですが、それが載っている、登場しているという部分もありますので、両社とも甲乙つけがたいと言うとあれなのですが、私は開隆堂のほうが読みやすく、わかりやすいのではないかなと思っております。

- **〇伊藤教育長** 持ち物というか、準備するものね。確実に最初に載せてから単元が始まっていますよね。こういうものを使います、という形で。
- ○海野委員 今、松樹委員がおっしゃったように、開隆堂は材料や使う用具がイラスト等で表現されていて、単元に入るときにとても学びやすいように工夫されていると思います。また、掲載されている作品が、児童の作品以外にも鑑賞できる作品がありました。中でも中国画はダイナミックで、ふだん接しない作品かなと思いますので、それらを目で見られることで、子どもたちの絵画とか作品に対する興味が高まるのではないかと思います。どの題材を見ていても本当すばらしいなと思いました。
- ○酒井委員 日文は学習で使う道具のことだけが左下にまとめて書いてあって、材料まで書いてあるのは開隆堂なので、準備がしやすいということがまずひとつあります。また、巻末で、材料、廃材を集めておこうというのはどちらの教科書にも載っているのですけれども、集めておいた材料をどのように使うのかということが開隆堂には載っていて、ああ、普段だったら捨ててしまうことも多いものですけれども、このように使えるのだというのがすごくわかりやすくて、いいなと思います。
- ○平井委員 まず、教科書のタイトル、開隆堂は「図画工作」というのをメインにして、「できたらいいな」とか、「ためしたよ」とか、「みつけたよ」とか、「わくわくするね」とか、その学年に応じて、上下でサブタイトルが全部変わっています。これが1つ図画工作らしいなと思いました。

紙面の使い方がすっきりしていることで、作品のつくり方の手順等も入れながら、子どもの作品をすごく大きく載せているのが印象的ですね。子どもたちにインパクトを与えるし、こんなものをつくってみたいな、描いてみたいなという思いを与えてくれるものであると思いますので、こういうつくりの中で子どもたちが学べていけたらいいのではないかと思います。そして、ページ左上に、先ほどありましたけれども、そこで使用するもの等が全部出ています。子どもたちが文字ではなくて、こういうものなのだなと絵を見なが

ら、名前と一致させながら、ここで使う材料を確認していくという点でも、工夫がされた 紙面づくりができているのではないかと思いました。

○伊藤教育長 図画工作、発行者2社を比べると、表紙の段階から、つながる思いとか教料書に題名みたいなものが入っているのとか、中をあけても、やはり開隆堂のほうに細やかな配慮があるのかなという感じがするところでございます。

それでは、よろしいですか

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、これについて採決いたします。

(挙 手 採 決)

(開隆堂5票、日文0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の5票を得ました開隆堂を小学校「図画工作」の教科書に採択することで決定します。

次に「家庭」に移りたいと思います。

それでは、委員長から家庭の報告をお願いいたします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 家庭は、東書、開隆堂の2社です。報告書13ページを ごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、小学校学習指導要領(総則)に示された、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を受けて、全学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行える構成(ステップ1見つめよう→ステップ2計画しよう・実践しよう→ステップ3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう)になっている。知識・技能の定着のため、学習の目標と評価を重視し、全ての小題材の始めに「学習のめあて」、終わりに「ふり返ろう」を設け、こまめに学習を振り返り、学習内容の定着が図れるようになっている。A4判を用いることで、情報量を充実させて資料性、視覚的効果を高め、学習の流れが把握しやすい紙面になるように工夫されている。学習内容、実習内容ともに、基礎基本から応用へと児童の発達段階に応じて系統的に配列されている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

開隆堂は、小学校指導要領(家庭科)に示された目標に則り、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、基礎的・基本的な知識や技能がしっかり身に付くように、スモールステップで学習が積み上げられるつくりとなっている。長期休みには児童が課題を決めで家庭実践ができるようにチャレンジコーナーが設けられている。環境を考えた実践例や

防災を考える例、伝統文化について調べる例、世界や日本のおやつの例など、家庭で調べたり実践したりできる事例が多数掲載されている。カラーユニバーサルデザインに関する配慮がなされ、印刷は鮮明でカラー効果が生かされている。季節感や学校行事を考慮した題材の設定と配列で、2学年にわたって段階的かつスパイラルに対比しながら学べるようになっている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

- ○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明に対して質問がありましたらお願いいたします。
- ○海野委員 東書ですが、教科書がA4サイズになりましたけれども、今使っているものより大きくなっていると思いますが、何かその点は話題になりましたでしょうか。
- ○秋山採択資料作成委員会委員長 実際に現行の教科書とは比較していませんので、サイズについては話題になりませんでしたが、調査員からは、現行より絵や写真が増えたと報告がありました。
- ○伊藤教育長 サイズのことについては話題にはならなかったけれども、絵や写真がその分、増えたという報告があったということでございます。サイズというのはAB判、横長に広がっているのが大きくなりました。理科も横に広げられるようになったのだけれども、どうでしょう。教科書を見ながら作業するのかな。でも、玉どめとかなんかの勉強をするにしても、先生と一緒にやるから、教科書を広げなくても済む。調理実習のときには教科書は机の下にしまったよね。
- ○平井委員 事前には使っていますけれども。
- **〇伊藤教育長** そうだよね。広げながらやっている子はいないよね。

さあ、皆さんどうですか。これは2社ですが、教育委員さん方もそれぞれこれは考えが あると思うのですけれども。

○海野委員 東書がA4判になったということで、本当に資料が見やすい、掲載している写真とかも見やすいなと思います。また、特に単元ごとに丸の中にステップ1、2、3と書いてあって、順序立って進めるようになっているのが子どもたちにとっては学習の進め方でいいのかなと思いました。

最後も出てくるのですけれども、学びを生活に生かすチャンスというコーナーが出てくるのですが、さらに進んで何かをやってみようと思った場合、その参考にできる内容が掲載されているのではないかなと思います。「感謝の気持ちを支えよう」、「パーティーを開

こう」、「サンドイッチをつくりましょう」みたいなものが書いてあるので、自分たちの役 に立つような資料が載っているのではないかと思いました。

- **〇伊藤教育長** 東書のほうがそのように感じられたということですね。
- ○酒井委員 私は開隆堂の教科書の下にあるひと口メモというのがとても生活に密着していて良いと思いました。例えば炒めるときに使う油が多過ぎると油っぽくなるし、少ないと焦げやすくなりますとか、フライパンを用いた調理で、食品をかきまぜて加熱することを炒めるといい、かきまぜないで加熱することを焼くといいますとか、そういう小さな定義ですけれども、大人が読んでも、ああ、そうなのだと納得するようなことがたくさん書いてあって、結構読む子どもも多いと思うのです。裁縫のところも開隆堂は中表にして縫いつけて、ひっくり返してランチョンマットをつくるようになっていて、この縫い方はいろいろなものに応用がきくと思うのですよ。なので、そういう実際に生活をするための実学として考えると開隆堂のほうがより実践に結びつけやすいのかなと思いました。
- ○伊藤教育長 家庭科の教科書というよりも、家庭科を実践する側の意見としては、確かにひと口メモ、子どもはこういうものをよく読みます。先生が一生懸命説明しているときに、下のほうを一生懸命見ていて。こういう知識は不思議と頭に入るのだよね。
- ○酒井委員 どのページにも書いていますものね。
- ○松樹委員 今、酒井委員がおっしゃられました開隆堂のひと口メモを見て、私も読んでいて、へえ、ああ、そうなのだとすごく教えられる部分がありました。ただ、東書は学習のめあてから始まって、一番下にあるふり返りという部分があるのですが、「やってみよう」、「話し合おう」、「考えよう」という流れがあって、それがわかりやすいのかなという気がしております。また、絵や写真もすごく見やすく、順を追って、わかりやすく配置されているのではないかなと思っております。先ほど委員長からの報告にございましたけれども、サイズが大きくなった関係で、調査員から絵や写真が増えた部分があったとお聞きしておりますので、こういった部分で総合しますと、私は東書のほうが見やすくて、成果が上がりやすいのではないかなと思っております。
- ○平井委員 今回、東書がA4判ということで、情報量を充実させて、資料性、視覚的にというところがあるのですが、私は資料性というところにちょっと思うところというか、資料という部分を載せていくと切りがありません。家庭科の場合は、材料から何から相当な範囲になってくると思うのです。このあたりの資料性というものを教科書の中どれだけ載せていくのか。載せれば載せるほどいいものはあると思いますし、子どもたちの参考に

もなります。ただ、その分、ページ数はちょっと増えてくるのかなというところと、少しは子どもたちに調べさせたり何かしなければいけないなというところがあるので、どういうところがいいか、悪いかというのはわからないのですが、今後自分の中では資料性というものが考えていく1つの課題だなと思います。

同じ単元の中でも資料の使い方で随分違うかなと思うのですが、例えば炒める調理の中に、開隆堂は同じような内容を結構細かく入れ込んでいます。その中に卵焼きができるまで、スクランブルエッグをつくるようなところまで載っています。そういう部分でも、2ページを通して見て、ずうっと流れていくと1つのものができ上がっていくという点では、同じものを載せても、現行のものでもサイズ的には十分通用するのかなとは思います。

- **〇伊藤教育長** 見開きで、それはそれで対応するということですね。
- 〇平井委員 はい。
- **〇伊藤教育長** 東書もつくりが上手というか、学習過程もしっかりしていて、資料も写真を多く反映されていていいのかな。ただ、開隆堂も家庭科の教科書をつくり込んできた中でいろいろなことがうまくちりばめられているなというのは私も見ていて思います。

実際に家庭科で調理実習をするときも、私ももちろん調理実習を指導していたのですけれども、大きな模造紙とかでちゃんと示して、それを横に張りながらやっているので、実際に机の上に出して見るものはありませんでした。そういうことで言うと、先ほど平井委員が言ったように資料をどこまで載せるかといったら、資料集みたいにいっぱい載せれば載せたですごくいいのかというと、そういうものでもないのかなという感じがします。

それでは、採決してもよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 これは皆さんがどう考えるか、私も少し考えを整理しなければいけません。それでは、目録順に発行者を読み上げます。

(東書2票、開隆堂3票)

○伊藤教育長 ということで、以上の結果、最多の3票を得ました開隆堂を採択すること に決定します。

それではここで、午後2時30分再開ということで、休憩といたします。

(举 手 採 決)

(休憩)

○伊藤教育長 それでは、審議を再開いたします。

小学校の「保健」について、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告をお願いいたします。

○秋山採択資料作成委員会委員長 保健は、東書、大日本、文教社、光文、学研の5社です。報告書14ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」となる授業の実現を目指して、授業の流れを分かりやすく、4ステップで構成されている。学習指導要領に示された「知識・技能」の習得に関して、「けがの手当」では、けがをした場合の適切な手当の方法を考え、実習しやすくなっている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

大日本は、章のはじめに「学習ゲーム」を掲載し、児童がゲームを行うことで学習の課題に気づき、意欲的に取り組めるよう工夫されている。全面的にユニバーサルデザインフォントを使用したりカラーユニバーサルデザインを踏まえた配色を工夫したりするなど児童にとって、見やすい紙面となっている。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。

文教社は、教育基本法第2条第3項に関連してキャラクターがペアになって会話しながら学習を進めることによって協力が大切であることを意識させている。「わたしの〇〇せん言」というページで、思考力・判断力・表現力をつけるとともに、それを友だちと伝え合うことで、自信をもってこれからの生活や学習に向き合っていけるようになっている。学校からは、「児童が健康や安全に関する原則や概念に着目できるよう、統計、調査等の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達段階に即している。」という意見が多くあった。

光文は、「章扉」では、各学年の学習内容を学ぶ意義がストーリー形式で示されており、学ぶ意欲を高めるとともに見通しをもって学習に取り組めるようになっている。5年「不安や悩みへの対処」では、具体的な対処の方法として深呼吸の仕方や呼吸筋のストレッチの仕方などが掲載されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学研は、教育基本法第2条第1項「幅広い知識と教養を身に付け」に関連して、「かがくの目」や「実習」を用いて健康や安全についての知識を科学的に習得することができるように工夫されている。「友だちと」マーク、「技能」マークなどと表示することにより、

- 一目で活動内容が理解できるように工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領 の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。
- ○伊藤教育長 それでは、ただいまの説明に対し、質問等ありましたらお願いいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは協議に入ります。皆さんのほうでご意見等あればお願いいたします。

和田教育支援課長、小学校で体育として授業を行うのですけれども、保健の学習に対しての授業時数は示されていますか。

- ○教育支援課長 保健については3年生以上で指導することになっておりまして、授業時数については、3年生及び4年生の2学年間で8時間程度、5年生及び6年生の2学年間で16時間程度となっております。
- ○伊藤教育長 3・4年生は2学年間で8時間。
- 〇教育支援課長 はい。
- **○伊藤教育長** 5・6年生になると2倍になって、16時間。そうすると、教科書としては 8時間の学習のために使用する。目安ですけれども、それぐらいのものでやるということ です。人の体の成長なんかはみんなでやるから、詳しく考えたらそれだけで2、3時間使 ってしまいそうな気がするけれども、3・4年生だと、単元がこれだけあると、1時間で 1個ずつやり遂げなければいけないということですね。
- ○海野委員 東書ですが、3・4年生で健康であることが大事というところを取り上げて、毎日の生活に運動をとか、外遊びの注意などを取り上げて、また、5年生でリラックス体操を取り上げているので、運動、スポーツを身につけることが良いということを学ぶのではないかなと思います。また、5・6年生で心の健康という形で取り上げられて、善悪の判断と感謝、礼儀をということを取り上げていますので、体と心両方を4年間で学べるのかなと思います。また、がんの予防についても掲載されているので、子どもたちにとっては参考になるのではないかなと思います。喫煙とか、そういうのはどこの教科書も取り上げているのですけれども、写真がしっかりと掲載されている点が印象に残りました。
- ○酒井委員 光文が現行のものということで、開くと見開きにアスリートが載っていますが、アスリートのパフォーマンスの良い体と健康というのは別にイコールでないのではないかなと思うのです。アスリートみたいになれという授業ではもちろんないと思うので、

それは適当なのかどうなのか。海野委員が先ほど東書の教科書について、たばこの害とかを取り上げているとおっしゃっていましたけれども、小学生にとってより身近な虫歯のページも、東書のほうで見ると、資料でだらだら食べると虫歯になりやすくなるというのがすごくわかりやすく比較して書いてあって、資料が2つ並んでいて比較がわかりやすいので、そういうことが特徴なのかなと思います。こういう生活習慣だとパフォーマンスが上がらないよねとか、そういうものが少ない授業時間でも資料で見てわかると、子どもたちに読んで伝わるのではないかなと思いました。

○松樹委員 今回、新しい学習指導要領に改訂されましたけれども、心の健康というのは どれも扱っていて、心の健康という部分で心の発達及び不安や悩みについて対処というと ころに、プラス技能というのも追加されました。どの発行者も、例えば呼吸法だとか、体 ほぐし運動とかというのを紹介しているのですが、見比べてみると、やはり一番わかりや すく、資料等も充実しているのは東書かなという気がしております。心の部分というのは 本当に今日的な課題で、子どもたちにとっては一番大切な部分ではないかなと私は思って おりますので、わかりやすく書いてあるのがいいかなと思っております。

また、今、東書と言いましたけれども、3・4年生が8時間、5・6年生が16時間程度という話の中で、時間がないからということではないのですが、やはりポイント、ポイントを押さえながら、流れがわかりながら学習を進めていったほうがより効果的に伝えられ、子どもたちが学習できるのではないかなと私は思っておりますので、その観点では東書が一番見やすいかなと思っております。

○平井委員 皆さんの意見を聞いていると、納得させられる部分があります。私は年間8時間という中で、子どもたちにどのように教えていくか考えたときに、できるだけシンプルでいいのかなと思っていて、その点、今までの光文はもう初めに、「話し合おう」、「調べよう」と。その見開きの中で1時間の内容が全部書いてあって、資料的なものは確かに言われたら少ないなと思うのですが、そういうものは補充をしていってもいいのかなと思っていますので、できるだけシンプルな中で必要なポイントを押さえていく指導であっていいのかなと思います。

〇伊藤教育長 東書がいいという方とほかのほうがということで、直接的なやりとりを皆さんなさっているわけですけれども、東書には学習の進め方ということで、「気づく・見つける」、「調べる・解決する」、「深める・伝える」、「まとめる・生かす」とか、そういうことが資料に載っているということで、時間ごとの学習過程が、わかりやすいというメリ

ットがあります。でも、これを1時間で終わらせなければいけないというところが教科書のボリュームからいうとあります。5・6年生のほうはちょっと余裕がある感じですけれども。内容としましては、光文とか、ほかのもそうですけれども、直接写真で出るよりは、子どもたちの成長なので、絵で表現するというのも定着を促進するひとつの手かなとも思います。

ただ、時間がないだけだとすると、手にとった子どもたちは、その時間だけでなくほかの時間も見ると考えると、資料としていっぱいあったほうが子どもたちは見応えがあるかな。授業として見るのとともに、ふだんのときにも子どもは教科書を見たり、興味があるところをじっと見たりしますので。だから、先ほどの家庭科とはまたちょっと違って、時数が少なければ少ないほど資料としての量が多いほうが、子どもたちは空いている時間にこれを見るのかなと思ったりもしますし、一長一短と言うと言葉が変ですけれども、ほかもそれぞれそのような工夫がなされているところなので。

皆さんはもう大丈夫ですか。

- ○松樹委員 できれば教員を経験されていた平井委員にお聞きしたいのですが、大きさが会社によって違っている部分と、例えば大日本だとかは3・4年生のシール等がついている部分なのですが、この辺の使い勝手の話というのはいかがでしょうか。私自身は大きいほうが良くて、シール等は要らないかなと思ってしまうのですが、その辺のご意見を聞かせていただければと思います。
- **〇平井委員** シール等に関しては、授業の中で使っていけるのが一番いいかと思うのですが、それ以外でも自分の成長で、例えば成長記録でしたら年間の中で身長、体重の検査もありますから、そういう折に使うことも可能なので、あえてその時間の中で使わなくてもいいのではないかと思いますし、学校から出る健康診断結果も含めて使っていくことも十分可能だとは思います。
- ○松樹委員 大きさはどうですか。
- ○平井委員 サイズは今いろいろですよね。だから、サイズというとほかの教科も含めての話になってしまいますが。あとは教科書会社がその中にどのように載せ込むかというところにかかっているかと思います。できるだけ見やすくしようとか、大きくしようとか、写真を大き目とかということであれば大きいサイズになってくるでしょうし、今までどおりの中でというのならば紙面の割りつけもそのような形でされているでしょうし、今回の教科書採択が終わって、全種目の教科書を選んだとしても、多分本のサイズはばらばらか

なと思います。

- **〇伊藤教育長** 和田教育支援課長、例えば先ほど説明がありました時間数で、学校現場で 保健の授業というのは的確に実施されていると思いますか。
- ○教育支援課長 3年生及び4年生では1年間に大体4時間です。それを毎学期に1時間ずつ、又は、どこかの学期に2時間、2時間という形で。やはりそれは学習内容の系統性とかもありますので、その辺は学校で考慮して指導していると思います。
- ○伊藤教育長 例えば保健の関係だと、6月までに身体測定とか健康診断をしなければいけないと法令で決まっているよね。その結果が出たときに保健の授業として取り上げるとか、その辺は少ない時数なので、これから何かとタイアップしてやれると良いのですが、教科書自体も、例えば3・4年生だったら、身長、体重の結果が出ますから、それをもとにしてこういう指導をしましょう、それで、心と体はこうなっていますというほうが良い気がします。4時間しかないわけですから、それをどこに入れていくというのは大事なことなのかなと思って。直接採択とは関係ないですが、時数を聞いてそのように感じました。

それでは、保健を採決してよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それではお願いいたします。

(举 手 採 決)

(東書4票、大日本0票、文教社0票、光文1票、学研0票)

○伊藤教育長 以上の結果、最多の4票を得ました東書を採択することで決定します。 続いて「英語」に移ります。

それでは、英語は7社からの発行ということで、海老名市教科用図書採択資料作成委員会でも初めてなのでさまざまな意見が出たと思いますけれども、報告をお願いします。

〇秋山採択資料作成委員会委員長 報告させていただきます。英語は、東書、開隆堂、学図、三省堂、教出、光村、啓林館の7社です。報告書15、16ページをごらんください。報告内容を読み上げさせていただきます。

東書は、会話文を重要視した構成になっており、児童同士があいさつをしたり、相づちを打ったりするなど、相手を意識した会話がしやすいように工夫されている。場面ごとに使える様々な英語表現を別冊に収録し、日常生活で気軽に英語を使えるように工夫している。単元のテーマに沿った明確な目標のもと、活動を紙面上の定位置に配置することで学

習の流れが一定になり、児童にとって分かりやすいように工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

開隆堂は、言語能力の育成に関して、児童が目的をもって、他の児童と関わりながら学習できるように、相手意識を持たせたやり取りのできる題材が扱われている。プログラミング学習と融合した活動や東京オリンピック・パラリンピック関連の話題を取り上げ、今日的な課題をわかりやすく学べる。ページごとに情報量が適度であり、児童が把握しやすい構成になっている。学校からは、「体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、単元のはじめにSceneのイラストを見ながら何度もナレーションを聞く活動を繰り返すことで、児童の気づきや意欲を促す工夫がされている。「話すこと」に関連した学習内容が充実しており、児童同士のやり取りを目的としたsmall talkを毎時間行うことで、コミュニケーション能力の向上を図っている。単元の終わりに既習事項である教科横断的な内容や異文化理解が促進されるコラムが掲載されていることが多く、児童の興味関心を広げ、高めることができる。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

三省堂は、HOP・STEP・JUMPの3つの構成によって学びのプロセスが確立されており、課題とゴール(CAN-DOリスト)が示され、段階的に学習内容の定着が期待できる。「聞く」の項目が充実しており、音声で十分に慣れ親しんだ上で「話す」「書く」「読む」の活動に取り組むことができ無理なく段階的に学習の定着が見込める。教科横断的な内容が充実しており、自国と他国の文化を尊重する国際理解的な内容に加え、言葉の由来や時差など他教科で学習した内容が組み込まれている。学校からは、「文章表現や用語・記号・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、教育基本法で示されている「伝統や文化の尊重と国際理解」に関連し、学校や地域、国内外へと徐々に広い世界へと目を向けさせるよう、自国も含めた様々な文化への関心や理解を深める教材が盛り込まれている。見開き1ページで内容が構成されていて、学習したいことが明確であり、5領域がバランスよく学べるよう工夫されている。教科横断的な要素が多く扱われており、他教科で学習した教材や内容を盛り込んでいるので、安心して学習に取り組め、達成感にもつながる構成となっている。学校からは、「各内容の

分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。

光村は、学習指導要領に示された「主体的に学習に取り組む態度」に関連して、各Unitでは「あいづち」などResponseが大切であるということを多く位置付けており、主体的に相手とコミュニケーションを図ろうとする態度を養う工夫がされている。「豊かな心を育む」ため、世界で活躍する日本人や12か国の小学生の様子などを見て、多様な文化や価値観に触れ、見方・考え方を広げられる内容となっている。各Unitの「Alphabet Time」では、アルファベットの読み書き、「Fun Time」では、英語の響きを味わうことで音に慣れ、徐々に文を書けるように、段階的な内容になっている。学校からは、「児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

啓林館は、Unitの構成が統一され、文章を書くページが設けられていて、自己表現活動がしやすい構成になっている。学習指導要領で示されている「思考力、判断力、表現力等」の育成に関して、「Review」では、既習表現を使って、場面や状況を変えて外国語によるコミュニケーション活動を実際に行えるように工夫されている。「Chant」では、自然に英語のリズムやアクセントが身につくような工夫がされている。学校からは、「実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなど、工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

○伊藤教育長 7社ということで、説明ありがとうございます。

それではまず、ただいまの説明についてのご質問等ありましたらお願いいたします。

- ○平井委員 教出の報告の中で「他教科で学習した教材や内容を盛り込んでいる」と書いてありましたけれども、調査員から具体的な説明はありましたか。
- ○秋山採択資料作成委員会委員長 調査員からは、教出の6年生、82ページに、2年生の 国語の教科書に載っていた、かえるくんとがまくんの「お手紙」という物語を教材として 扱っているという説明がありました。
- ○伊藤教育長 ほかはいいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、皆さんで協議していきたいと思います。

これについては初めての教科です。一度決定をしたとしても、何年間か使って、また見直しを図ればいいのでしょうけれども、先生たちは1度使ったテキストに慣れて、指導法を確立していくところがあるので、第1回目はそういう意味でも非常に重要なのかなと思

っています。

和田教育支援課長、今年度から海老名市では、先行実施というか、新学習指導要領の時数で、前倒しで英語の授業を行っていますけれども、現在はテキストとしては文科省から配られたWe Can!でやっているのですか。

- ○教育支援課長 はい、そうでございます。
- ○伊藤教育長 そのテキストと本日採択する教科書のつながりというのはないですか。それはそれで、文科省がテキストとして出したわけだから、そのままそれを使ってくれと言ってくれれば、2年間ぐらいやっているから良いのですけれども。その点は別個に考えざるを得ないのですよね。
- ○教育支援課長 そうですね。ただ、これまで使ったテキストのことを考えてぜひご検討をお願いできればと思います。
- **〇伊藤教育長** それらも踏まえているということですか。わかりました。さっき私が言ったように、今年は確実に、前年のテキストや授業を参考にして展開してきていますので、 そこが1つのポイントとしてあるのかなと思います。

では、皆さんのほうで英語の教科書についてご意見等ありましたらお願いしたいのですけれども。

- ○松樹委員 1点だけ、和田教育支援課長、今までやってきた現行の時数と英語の教科化 による時数に変化はありますか。
- **○教育支援課長** 今年度より海老名市では先行実施で5・6年生は年間70時間やっておりまして、次年度も同じ時数を、教科書を使って指導することになっております。
- ○松樹委員 変わらないと。

今お話しありましたように、今までWe Can!を使ってきた流れの中で、スムーズに移行できるといいますか、子どもたちが学習してきたことが、学年が上がってもそのまま引き継いでいけるような内容の教科書が私はいいかなと思っております。どの教科書会社も、キャラクターが多いのですね。すごく多くて、中には10人ぐらい登場するものもありますので、出てきて、この人、誰みたいな話になってしまうのではないかなという気がしているのです。例えばそれぞれの場面を切り取った中で教えられるとか、そういうもののほうが子どもたちにとってはわかりやすいのではないかなと思っております。

以上でございます。

○海野委員 英語の教科書は選考するのがとても難しいなと思います。ただ、今までも海

老名市は英語に少しずつ取り組んでいますけれども、今使っている教科書というか、テキストと紙面が同じような感じで入れればいいかなと思います。また、単元ごとに楽しみながら学習できるよう工夫されている教科書がいいと思いました。今、見ておりますと、「Let's play Sugoroku!」とか、文字遊びでシールを活用したりとか、地図があって、好きな建物を入れて、それで道案内を英語で表現する、みたいなことが楽しみながら設計されている教科書がいいかなという感想を持ちました。

○伊藤教育長 みんなで協議して選ばなければいけないので。

現状、中学校は英語ということで教科書を採択して進めているけれども、小学校はまだ始まったわけではないので、一貫してどうだということではないかなと思うのです。小学校は小学校でやっていただくということで。

現行の中学校の英語の教科書、発行者はどちらになりますか。

- ○教育支援課長 現在海老名の中学校が使っている発行者は開隆堂でございます。
- **○伊藤教育長** 「SUNSHINE」だ。それで小学校の場合はそれにJuniorがついて「Junior S unshine」だ。
- ○酒井委員 今回、英語が教科化になるというのはもう本当に大きな方針の転換で、一番の山場というか、大きな転換点なのかなと思っているのですけれども、何で小学校に英語を教科化して入れようかという話になったかというと、中学校、高校の教育だけでは話せるようになっていない日本人が多いからだと思うのです。どうして話せないのかというと、やっぱり英語特有の音とか、リズムとか、そういったものに対して免疫がつかないで、そのまま文法的なことだけをやって、卒業していくから、日本人は英語がいつまでたっても話せない。その反省に立って、小学校で英語を教科化して、英語に親しもう、そういうリズムや音と親しもう。そして、それをもとに英語の学習をもっと進めていけたらいいなというような願いがあったのではないかなと私は理解しております。

7社、各社様々な工夫をしてあって、We Can!からの流れを汲んでいるもの、中学校教科書の流れを汲んでいるもの、いろいろあるなと思ったのですけれども、今回5・6年生になって、英語の文字を読む、書くことが入ってきたというのが大きな柱になるのかなと思います。アルファベットの文字を書くというだけではなくて、読むということは、そのアルファベットの音をしっかりと理解して、自分でこの文字列だとこのように読むのかなというように少しずつ推測して読めるようになっていくということが読む能力を獲得していくためには必要なのかなと思っているので、そういったアルファベットの音、アルファ

ベット名ではなくて、音をしっかり意識して習得ができるような教科書を選びたいなと思っています。それが1つです。

あとは啓林館の中にはChantというのがたくさん出てきて、We Can!でも音に合わせて、 リズム、ビートに合わせて英語を読むというのが入っていると思うのですけれども、特に 英文の場合は強く発音する音とそうでもない音。日本人だとほとんど聞き逃してしまうよ うな音とかもあるような、リズムのある言語だと思っているので、そういうものを口で何 回も何回も、いろいろなChantを実際に口で発することで英語が話せる舌の筋肉とかも育 っていくのかなと考えます。Chantがあるのがいいなと思いました。

○平井委員 海老名市ではALTを入れて、ずいぶん長く経っていると思うのです。ALTの活用、子どもたちは卒業していますけれども、子どもたちの英語への興味、関心というのは高まってきているのかなと思います。そういう点では、海老名市で取り入れたときに、今の社会情勢を見越してというところもあったかと思うのです。ですから、まだ最初のころはALTも少ないという状況の中で、これだけ継続してきたというのは海老名市としては誇れるところであるのかなと思います。ですから、このつなぎがうまく教科化の中に入り込めるのか、そういう視点から選んでいかなければ、子どもの学習にも戸惑いが出てくるかと思いますし、先生たちもそういう中でALTと一緒にともに学んできていますので、そういう指導が生かされるものであるならば、教科書はそれに準じたものを選ぶのが有効かなと思います。

私は実際にやることはないのですが、ただ、各教科書の単元を見ていて、その単元の内容が子どもの生活から離れている部分はちょっとというところもあるのですね。ですから、私は子どもの生活に密着した単元ができるだけあるようなところがいいのかなと思いながら教科書を見させてもらいました。英語は初めてなので、ましてや外国語ということで、教科書を開いたときにわくわくどきどきするものも必要かなと思うので、楽しい教科書を選びたいなと思います。

○伊藤教育長 ほかに皆さん、ご意見などはありますか。

Chantとかが入ったほうが楽しくリズムで覚えられるという話がありました。この前も小中の先生方の英語の研修会があって、長い文章を何秒間で読むのだと。その講師が言うには、この言葉とこの言葉を読んで、あとはだらだらっとやってしまっても英語は通じることが多い。でも、リズムは確実に必要で、長い文章でも、1・2・3、1・2とかなんかのリズムの中に入れなければいけなくて、どこを強調するかによって全然意味が違うか

ら、その強調されたところを聞き取るとリズムでやれると言っていました。

○海野委員 私も1つ、英語に慣れ親しむには、1回だけではなくて、読む、書く、聞くを3回ぐらい繰り返す授業がもっと欲しいなと思っています。力が養われるのではないかなと思うので、これからの授業展開をよろしくお願いしたいと思います。

○酒井委員 海野委員がおっしゃったみたいに何回も繰り返すというのが本当に大事で、 自分の口でしっかり発音するとリスニングもできるようになると思うので、そういう繰り 返しのあるような学習が進んで、海老名の子どもたちが英語が得意になってくれるといい なと思います。

〇平井委員 教科書が今日採択されるわけですけれども、まずは先生たちにじっくり教科書に目を通していただきたいなと思います。やはり先生たちが主導になって子どもたちに教えていくわけですから、先生たちが楽しいな、この教科書で子どもたちに学ばせ、一緒に学んでいくのが楽しいなと思っていただけるようなものであればいいなと思います。

○伊藤教育長 いろいろな教科書が入って、もちろん小学校1年生から海老名は英語活動をやっていますので、3・4年生は確実に週1時間になりますけれども、1・2年生も年間10時間から何時間かはALTとやりとりしています。そういう中で、一昨年から英語教育推進計画にのっとって、文部科学省の教材をもとに今年度はWe Can!というものを使って、その前からもかなりそれを参考にして研修を行って、今年度は年間計画もできて、それにのっとって英語教育を進めているのですよ。その中身は、例えばこれだと、この教科書はLesson OneでNice to meet youということで、まずはみんなでご挨拶しましょうということで進んでいるケースのものでございます。この教科書、Hello、Everyoneとやるのですけれども、今、海老名はこういう形で、学校とか英語の友達とか、または子どもたち同士の挨拶の場面からスタートさせるというのが基本です。スタートさせた後に、今ここに4枚の絵があるのですけれども、それぞれ1枚ずつ選んで、その絵に描かれた場面を想定して会話を繰り返し練習するということが進められています。

一昨日も上星小学校に行って、授業を見てきたのですけれども、先生方が同じように進めていって、次はこの場面でということで絵を選んで、その場面についてどんな会話を展開していくかということでやりとりしながら、ALTも入って子どもたちと会話するような形の授業に今1年間取り組んでいます。教科書会社もそれぞれあるけれども、そう考えますと、光村の教科書が今海老名の学校で取り入れている授業のやり方に一番合っているのかなという気がしています。

もちろん酒井委員からは啓林館の話も出たし、見ると教出もすごく工夫されている。今回は教科書なので、2次元コードの中身がどうだとかいうのは対象外なのですけれども、そういう意味で言うと、それが充実しているものもあるし、また、東書の「NEW HORIZO N」のように、松樹委員なんかはこれを見てすごくいいなとおっしゃられていますね。そういうそれぞれの教科書の工夫があるところでございます。現在の形で海老名市が先行実施している授業の進め方の方法としては、「Here We Go!」という光村の教科書が一番合っているということで、先ほど平井委員もそういうものでまずやってもらって、先生方が今までやってきた、積み重ねてきた授業が展開できるといいのではないかという意見というか、思いがあります。そういう意味では、私としては、これが海老名の現行の授業パターンのひとつというか、学習課程の進め方の中でこの方法を使っているというのがひとつのでございますので、私の意見も参考にしていただきたいなと思います。

○松樹委員 今、教育長からお話がありましたけれども、光村の教科書は各項目、場面ごとにストーリーを設定して、その中で学習できるという部分がありますので、その辺は現行ももちろんそうですし、子どもも感情移入がしやすくて、流れがわかりやすいのではないかなと思っております。また、先ほど報告にもございましたけれども、「Alphabet Time」で読み書き、「Fun Time」では英語を耳で学習するという形の中で、しっかりと段階を置いて学習ができていくのではないかなと思っております。

先ほど教育長がちらとおっしゃいましたけれども、東京書籍の教科書にはプラスしてディクショナリー、辞書がついているのですが、この辞書、私はすごくよくできているなと思っていて、この辞書だけというわけにはいきませんが、中学校になってもわかりやすく、ほとんど英語ではカード、自分で切って使うようになっている出版社が多い中、すごくわかりやすいと思っております。

中身については、光村の教科書のほうが私は流れが一番いいのではないかなと思っております。

○伊藤教育長 前に平井委員がおっしゃったように、「Here We Go!」は全て学校の場面っからスタートするのですよ。最初のシーン以下、全て学校場面で、外がないのです。学校の教室の一場面とか、遠足とかなんかに行った外国語教育活動の場面なので、子どもたちの身近からスタートしているのです。それでシートが分かれているという形でございました。

じゃ、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 それでは、教科書目録順に発行者を読み上げますので挙手をしてください。

(举 手 採 決)

(東書0票、開隆堂0票、学図0票、三省堂0票、教出1票、光村3票、啓林館1票) 〇伊藤教育長 以上の結果、最多の3票を得ました光村を採択することに決定します。

それでは続いて「道徳」に移りたいと思いますので、準備をお願いします。

それでは、小学校教科用図書採択の最後です。「特別の教科 道徳」の審議に入ります。 これについては8社ありますので、海老名市教科用図書採択資料作成委員会からの報告 を、秋山委員長、よろしくお願いします。

〇秋山採択資料作成委員会委員長 「特別の教科 道徳」は、東書、学図、教出、光村、 日文、光文、学研、廣あかつきの8社です。報告書17、18ページをごらんください。報告 内容を読み上げさせていただきます。

東書は、学校教育法「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」に関連して「学習の記録」毎時間の「学習の振り返り」学期ごとの「学習のまとめ」が設けられている。「考え・議論する」ため、読み物教材とは異なった形式の「活動型教材」が掲載されている。いじめ問題に関して、どの学年でも複数の教材を関連付けた学習が設定され、「とびらページ」をもとに直接的、間接的教材を組み合わせて学習することで、いじめをしない、許さない心を育むよう工夫されている。学校からは、「学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学図は、2分冊化することで、課題を見つける場と学びを深める場が明確化されている。問題解決の各段階において、焦点化した取り組みができるよう工夫されている。道徳的諸価値に気付くために、「こころのパレット」が設定されている。内容項目ごとにまとめられており友達や過去の自分との対話から深い学びになっている。教材文の精選や文字数の削減により、軽量化と見やすさの向上が図られている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

教出は、本教材30本と補助教材5本で構成され、学校の実態に合わせた指導ができるよう配慮されている。モラルスキルトレーニングなどの多様な指導方法を取り入れることで問題解決的な学習ができる学びの手引きが用意されている。全学年をとおして、児童が無理なく学習できるよう教材内容が精選され、文章が短い教材、絵や写真から考えさせる教

材が積極的に掲載されている。学校からは、「各内容の分量とその配分は適切である。」という意見が多くあった。

光村は、教育基本法に示されている「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」に関連して、全巻にわたって、「生命の尊さ」に力点が置かれている。いじめ問題・情報モラル等の現代的な課題について、「よびかけ+教材+コラム」のユニットで児童が向き合うことができるよう工夫されている。各学年の児童の発達段階や特性を考慮し、それぞれの学年にふさわしい教材選定となっており、児童の心を捉える教材がバランスよく適切な分量になっている。学校からは、「児童の実態からみて適切である。」という意見が多くあった。

日文は、いじめについては、複数教材とコラムから構成された「いじめ防止ユニット」を年間3回配置し、多面的・多角的に学習できるよう工夫されている。別冊の「道徳ノート」がついており、気付きや学びを書きとめ、積み上げることができるようになっている。また、自由記述欄があることで、自分や友達の意見を比較・確認したり、文字以外の方法で表現したりすることができるよう配慮されている。教材はすべて見開き単位となっており、前後の教材に気を取られることなく、児童が集中しやすい構成となっている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

光文は、教育基本法に示されている「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」に関連して、「生命の尊重」を全学年で重点主題設定としている。さまざまな「問いかけ」により、多様な感じ方や考え方を実感できようにし、児童の多面的・多角的な思考を促す工夫がされている。「問いをもつ」→「考える」→「まとめる」→「広げる」の4段階の紙面構成で主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

学研は、教育基本法に示されている「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」と関連して、生命の尊さを様々な視点から考える「いのちの教育」が重要テーマとされている。児童が自ら主体的に課題を発見し課題を深められるよう、主題名を本文と出会う前に記載しない工夫がなされている。すべての教材が見開きで始まり、A4版の紙面をたっぷり使って、写真やイラスト、漫画など豊かなビジュアルで表現されている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がな

されている。」という意見が多くあった。

廣あかつきは、「みんなで考え、話し合う」ことができる本冊の内容を、「自分を見つめ、考える」ことができる別冊で深めることで豊かな情操と道徳心を培うよう工夫されている。「学習の道すじ」でねらいやめあてを明確にし、終末の「学習を広げる」で「道徳的諸価値」への思考の深まりが促されるよう構成が工夫されている。本冊は見やすさ、別冊は書き込みやすさを重視し、本冊の背に見返しをつけて、本冊巻末に収納できるようになっている。学校からは、「小学校学習指導要領の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされている。」という意見が多くあった。

〇伊藤教育長 それでは、道徳は8社ということでございますので、よろしくお願いします。

2年前の改訂ですので、各学校では2年間、使っているところでございます。2年間使っている中で、改訂ということで、現行は光村ですが、ここで改めて考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

- ○松樹委員 今、教育長からお話しがあったとおり2年前に採択したのは光村なのですが、ちょっと委員長にお伺いしますけれども、光村の教科書を使って学校から何か2年間といいますか、意見等あったのか、お聞きをしたいのですが。
- ○秋山採択資料作成委員会委員長 学校からは、物事を多面的、多角的に考える学びや工 夫があり、発問が吟味されている、わかりやすいという意見がありました。
- ○伊藤教育長 発問が吟味されていればわかりやすいよね。

これ自体は、広げても、それぞれ大きさはいろいろあります。光村が一番小さいのかな。小さいと言うと言葉が変だけれども、判としては。

- **〇平井委員** 教科化されて、2年近く経つのですが、学校での道徳の学びに必要ということで、校内研究に位置づけている現状について、おわかりになれば知らせていただきたいのですが。
- **〇伊藤教育長** 海老名市内の小学校の校内研究で道徳に取り組んでいるところについて、 わかったら教えてください。
- ○教育支援課長 把握しておりますのでお答えいたします。今年度小学校の校内研で道徳 を研究している学校は、全13校のうち7校という現状です。
- ○伊藤教育長 7校の取り組んでいる学校は、現行の教科書を教材にやっているということなのですよね。例えば独自教材とか神奈川県の読み物集もあったりするのですが、どん

な感じですか。

- **〇教育支援課長** 原則として教科書を使っておりますが、学校によっては違う教材にかえて、研究を行っていると聞いております。
- **○伊藤教育長** 全取りかえではなくて、教材を1つ持ってきてとか。神奈川県の地域版とは言わないけれども、そういう教材集もあったりしますからね。それは各学校で。基本的には小学校の教科書を使っているということですね。
- **〇平井委員** 校内研の中では、授業を発表し、校内で研究を持っているという状況ですか。
- ○教育支援課長 はい、そのとおりです。
- ○伊藤教育長 今年度から研究を始めた学校が多いということですか。
- ○教育支援課長 道徳が教科化になることを見越して、その前から研究しているところもあるのですけれども、今回、30年度から小学校が入ったので、それに合わせて道徳を始めた学校もございます。
- **〇平井委員** ということは、各学校で年間計画がもう作成されているということですね。
- ○教育支援課長 はい、そのとおりです。
- **〇伊藤教育長** 前回のとき、別冊が話題になって、別冊があるのは扱いが煩雑だからやめようとこの中で話し合ったのを覚えているのですけれども、そうでしたよね。どうですか、皆さん、別冊についてはまだ何か意見はありますか。海野委員はいかがですか。
- ○海野委員 別冊になっていない方が良いと思います。前回でも出たと思うのですけれども、学校の先生が、別冊があると、別冊を忘れてきたりとか、学年の途中でなくなってしまったりとか、そういう傾向もあると思いますし、また、先生方は、道徳の授業においてはワークシートを多分つくられると思うのです。そのワークシートで学習を進められると思うので、別冊がなくても、今の学習の進め方では十分補えるのではないかなと思います。ということで、別冊は必要ないのではないか、このページは要らないのではないかなと思います。
- ○伊藤教育長 そこで記述するのにも教員が、例えばワークシート、または必要ならノートか何かを使うことによって、別冊がなくてもそれを流用できるかなということです。そうなると、もう別冊があるところはこれで終わりになりますけれども。
- ○松樹委員 私も別冊があるのは、道徳という教科の特殊性を鑑みると、ワークシートみたいな形でなくても、穴埋めをしていくことが目的になってしまっているような気がしま

して。それは子どもたちのクラスの発達状況だとか、子どもの段階に合わせながらノートなり、担任の先生がプリントしたものを使ったほうが私は適切ではないかなと思っております。

○伊藤教育長 私は今回、一番シンプルというか、学図の教科書で、ほか教科書はここが何もないのですよ。ほかの教科書は、考えてみようとかなんか、そういうのが全部ついているので、子どもたちも教材の題材を読んだら、その後に、ああ、次はこれを考えるのだとわかるようなものに全てなっているのです。ただ、今の要件でいくと、私はこういう教材だけが載っているシンプルなものがいいのですけれども、別冊がついています。

ただ、この別冊には全てこういうことをみんなで考えようとかなんかになっているのです。だから、どれだけシンプルにやっているのか。現行の光村であっても、例えば教材が終わった後に、「正直でいることが大切なのはどうしてかな」とか、「神様はどうしてきこりを褒めたのでしょう」と発問が出ていたりするものですから、それは道徳学習の中ではいかがなものかなと思っています。これは前回も言ったのですけれども、現行では勉強は今これでやっている。日文が量的に少ないかな、それぐらいしか載っていないので、日文は抑えているかなと思うのですけれども。

あと、全然これが載っていなかった学図は別冊がついていて、そこに全部載っているということなので、そのときにも話題になったのだけれども、今の教員は経験が少ないとは言わないですけれども、海老名でも30代、40代の教員の方々が多くいらっしゃる。でも、その方々が学習としてテキストとして使うには、やはり現状である程度リードがあった、示唆があったほうが使いやすいということは多分感じているのかな。でも、できれば教材文というか、題材を投げかけて、教師が発問して、そのやりとりの中で子どもたちが話し合ったり、考えを深めたり、自分自身でもやりとりするような道徳となることがありがたいのかなと思うのです。そういう意味では日文はバランスがとれているのだけれども、またこれがすごく厚いのですね。そうなると、光村は小さくて、これしかないと言うと言葉は変だけれども、すんなりしている。

前は使い始めのころに、1年ぐらいたったときに教育委員会で聞いたのですね。使って みていかがでしたかといったら、1年生の字が小さいと先生たちから言われたのです。で も、今回大きくなってきた。だから、もう改良を加えられたのだなと思っています。

○酒井委員 私は前の採択のときはいなかったのですけれども、別冊があることで、先生からこれが適当だろうというのがちょっと出しにくいのではないかなというのは何となく

想像がつきますし、道徳は教科になってまだ2年なので、今までの先生方の校内研究とか 研修の内容を生かせるような教科書を採択するといいのかなと考えております。

- ○伊藤教育長 わかりました。
- ○海野委員 前回は光村を選ばせていただいたのですけれども、今回の光村もとてもよくできていて、本当に道徳にふさわしい教科書だと思います。

今回は私もほかのものも見させていただいて、教出のほう。光村と同じように、字も、 絵も、道徳に沿った表現方法というか、内容が掲載されていると思います。絵や写真がと ても道徳らしく表現されていると思います。その中でもモラルスキルトレーニングが取り 入れられていることによって、ほかの体験学習ができるように工夫されているところが私 としてはいいかなと思います。1つには、福祉教育とか、キャリア教育とか、現代に向き 合っている教材が取り上げられています。あと巻末に、「考えよう」、「深めよう」、「つな げよう」と設けられていることによって、生徒同士が意見交換できるようにまた工夫され ている点が良いと思います。

- **〇伊藤教育長** わかりました。
- ○酒井委員 感想なのですけれども、どの教科書も日本人が何かすばらしいことを外国に対してやったみたいなお話がとても多くて、それはそれですごく誇らしいところはあるのですけれども、ぜひ外国のお世話になったこととかも子どもたちに教えていけるような題材が中にあるとよかったなと思いました。
- ○平井委員 道徳が教科化されたときに、1人1人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う、考える道徳というようなことが打ち出されているのですね。そう考えたときに、やはりクラスの中で先生は子どもたち、学級の実態を捉えて、それにのっとった授業づくりや課題づくりをしていくことが求められているのではないかと思うのです。そうなると、やはり教科書の中にこれについて考えようというような発問が載せられているのは、私はどうなのかなと思っています。別冊も要らないし、教科書の中にそれは載せなくてもいいのではないかなという考えをずっと持っています。

そういう考えなのですが、先ほど海老名市内の研究の状況を聞くと、約半数以上の学校が新しく採択された教科書で校内研究をやっているということでした。研究をする中で、多分ここに載っている子どもたちに考えさせるという課題を結構精査してやっているかと思うのです。教科書どおりに授業づくりはされていないと思うのです。やはり学級の実態というものを指導案の中に載せ込まなければいけなくて、いろいろな状況の中で授業づく

りはされていると思いますので、もうしばらくは今の状況の中で現状の教科書を使っていってもいいのではないかなと思います。

○松樹委員 私は先ほど委員長からも報告があったので質問させていただきましたけれども、学校からの意見という形。光村は「物事を多面的、多角的に考える学びや工夫があり、発問が吟味されている、わかりやすい」という学校意見があったと伺いましたけれども、私も全くそのとおりだと思っております。

ただ、先ほど教育長もおっしゃっていましたけれども、やっぱりシンプルなのが一番なのだと思います。下手に誘導していくより、子どもが純粋にどうこの課題を捉えて、どう自分で考えて、自分がどうなのか、しっかり自分と向き合うというのが私は道徳ではないかなと思っているので、もっともっとシンプルでいいのではないかなという気がしております。

また、先ほどの報告書の中で光村が「『生命の尊さ』に力点が置かれている」とか、ほかでも光文が「『生命の尊重』を全学年で重点主題」、学研が「『いのちの教育』」が重要なテーマという形で、やはり生命の尊さとか命の教育というのは根本の話なんだと思います。そこに私はしっかりと今日的な課題の中で力を入れていくべきではないかなと思っております。

でも、総合して、私は、先ほど申しましたけれども、やはり現行使っているということ もありますし、中身を読ませていただいた中でも光村がいいのではないかなと思っており ます。

〇伊藤教育長 それでは、それぞれ意見をおっしゃっていただいたので、採択ということで挙手をよろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 私はあえて別冊でも今回はいいかなとか思ったりもしているところでございますけれども、それぞれ自分の意見で出してください。

(举 手 採 決)

(東書0票、学図1票、教出1票、光村3票、日文0票、光文0票、学研0票、廣あかつき0票)

〇伊藤教育長 以上の結果、最多の3票を得ました光村を道徳の教科用図書として採択することに決定します。

ここまでで、1点目の令和2年度使用小学校教科用図書の採択についての審議を終了い

たします。

まず、秋山委員長がいる中で確認だけさせてください。皆さんよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 国語については光村、書写については光村、社会については教出、地図については帝国、算数については東書、理科については学図、生活については啓林館、音楽については教出、図工については開隆堂、家庭については開隆堂、保健については東書、英語については光村、道徳については光村、以上、確認ですけれども、委員さん方、よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 それでは、秋山委員長、どうもありがとうございます。この後、中学校と 特別支援教育の教科書について審議しますので、ご同席いただいてもよろしいですか。引 き続きよろしくお願いします。

では引き続き、2点目の令和2年度使用中学校教科用図書の採択についての審議に入ります。

審議に入る前に、事務局より、採択についての説明をお願いします。

〇教育支援課長 令和2年度使用中学校教科用図書採択についてご説明いたします。

「特別の教科 道徳」以外の中学校教科用図書については、平成27年に海老名市教育委員会において、平成28年度から31年度までの4年間使用する教科用図書を採択しておりますが、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、今年度は採択がえの年度になり、令和2年度に1年間使用する教科用図書を新たに採用することが規定されております。しかし、新たに文部科学大臣の検定を経た教科書がないことや、令和2年度に全種目の教科書を採択することを鑑み、別紙2の中学校用教科書目録の中から平成27年度採択において資料とした別紙3、平成28年度資料中学校用教科書、海老名市教科用図書採択資料作成委員会報告書により、新たに採択について議決を求めるものであります。

なお、本年度、中学校で使用した教科用図書は、別紙4、平成31年度使用、中学校教科 用図書一覧にまとめてあります。

- **〇伊藤教育長** ただいまの説明を含めて、中学校の教科用図書は、今説明があったように 来年度全て採択いたしますので、今年度については前年度のままの資料のもとでというこ とがございますけれども、ご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。
- ○酒井委員 先ほどのお話で、来年度、また全部採択をする前の年度に、現時点で中学校

からこの教科書はもうかえたいというような話は何か上がってきておりますか。

- ○教育支援課長 そのような意見は聞いておりません。
- **〇伊藤教育長** ほかにはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

- **〇伊藤教育長** それでは、採択に向けて協議をしていきたいと思います。ご意見がある方はお願いいたします。
- ○松樹委員 先ほどご説明もあったとおり、中学校の教科書については来年度採択いたしますので、ここでかえてしまうと学校現場はもちろん、混乱をされると思いますし、教科書をかえるメリットは全く考えにくいのではないかなと思っております。
- ○海野委員 私も松樹委員の意見に賛成です。あと1年間、同じ教科書を使用してもよろしいのではないかと思います。来年度採択するということですので、ぜひそのままでお願いたしたいと思います。
- **○伊藤教育長** それでは、令和2年度はこれまで使用してきた中学校教科用図書をもう1 年使用することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、2点目の令和2年度使用中学校使用教 科用図書については、別紙4の平成31年度使用、中学校教科用図書一覧のとおり採択いた します。

次に、3点目の令和2年度使用特別支援学級教科用図書の採択についての審議に入ります。

審議に入る前に、事務局より、採択についての説明をお願いします。

○教育支援課長 令和 2 年度使用特別支援学級教科用図書の採択についてご説明いたします。

通常の小中学校の教科用図書は、採択地区ごとに1種目について1種類の図書が採択され、4年間にわたり使用することになっておりますが、特別支援学級教科用図書については、学校教育法附則第9条による教科用図書及び高等学校で使用する教科用図書についてによりこの限りではなく、1年間の採択期間で種目について複数の図書を採択することができます。

そこで、文部科学省著作教科書及び別紙5、別紙6の一般図書一覧から教科用図書として児童生徒に応じて選択するため、採択について議決を求めるものであります。

なお、別紙5、別紙6の一般図書一覧は平成31年3月の時点のものでございます。

- **〇伊藤教育長** それでは、ただいまの説明を含め、何かご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。
- ○平井委員 特別支援学級の児童生徒は現状で一般図書をどのくらい使用していますか。
- ○教育支援課長 今年度の使用状況につきましては、まずは小学校から、小学校特別支援 学級在籍児童146名のうち104名が一般図書を使用しております。

次は中学校です。中学校特別支援学級在籍生徒67名のうち16名が一般図書を使用しております。

- ○平井委員 小学校で146名のうち104名ということで、一般図書の使用が非常に多いのですね。とてもいいことだと思います。一般図書を使用するに当たって、保護者とかと相当連携をとっていると思うのですが、どのような状況でしょうか。
- ○教育支援課長 学校において、支援級担任と保護者で話し合って決定をしているという 状況でございます。
- ○平井委員 一般図書には本や図鑑、音楽関係の本などがありますので、今のを見ると多くの子どもたちが使用して学べるようですけれども、やはり個々の児童生徒の特性に合った学びができるように、ぜひ今後も保護者と担任との話し合いを密にしていっていただけたらと思います。
- ○伊藤教育長 わかりました。

ほかはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

〇伊藤教育長 ご質問ないようですので、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。それでは、3点目の令和2年度使用特別支援学級 教科用図書については原案のとおり可決いたします。

以上をもちまして、日程第1、議案第23号、平成2年度使用教科用図書採択についての 議案についての審議は終了といたします。

○伊藤教育長 本日の日程はこれで全て終了いたしました。秋山委員長におかれまして は、お忙しい中、海老名市教科用図書採択資料作成委員会の報告書の作成、今日の説明と 本当にどうもありがとうございます。

以上をもちまして教育委員会7月定例会を閉会いたします。